

令和7年度 教育委員会  
自己点検・評価報告書

令和8年6月

香南市教育委員会

## 目次

点検及び評価の概要	1
自己点検及び評価の構成	2
開かれた教育行政をめざして	
1. 教育委員会の活動	
(1) 教育委員会の会議	3
(2) 教育委員会と事務局との連携	3
(3) 教育委員の自己研鑽	3
(4) 支援・条件整備	4
(5) 広報・情報公開	5
2. 教育委員会が管理・執行する事務	
(1) 香南市教育行政の基本方針を定めること	9
(2) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員 の任免その他の人事に関すること	9
(3) 教育委員会の所管に属する各機関、委員会の委員の任免及び委嘱に関する こと	9
(4) 予算その他、議会の議決を経るべき事件の議案及びその意見を申し出ること	9
(5) 教育委員会規則及び訓令等の制定又は改廃に関すること	10
(6) 教育職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、福利及び厚生的一般方針を定 めること	10
3. 管理・執行を教育長に委任する事務	
1. 就学前・学校教育の推進	11
(1) 保幼小中連携の推進	11
(2) 家庭・地域と連携した教育の推進	13
(3) 生きる力と確かな学力の育成	18
(4) 教育活動を支える体制の充実	28
(5) 保幼小中の教育環境の充実	32
2. 生涯学習の推進	36
(1) 生涯にわたる「まなび」の展開	36
(2) 「まなび」の拠点の充実	39
(3) 文化・芸術活動の推進	42
(4) スポーツの振興	45
(5) 地域への「まなび」の還元	48
4. 成果指標の点検・評価結果一覧表	50
5. 成果指標の点検・評価結果	54
6. 学識経験者からの意見	83

## 点検及び評価の概要

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を実施することが義務づけられました。

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び教育委員会事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務の効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任があります。

このため、教育委員会の運営及び事務局の事務執行の状況について、学識経験を有する者の知見の活用を図りつつ点検・評価を行うこととし、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないとされました。

本報告書は、第2期香南市教育振興基本計画及び令和7年度香南市教育行政方針と対比し、計画の目標指標や方針に対しての達成状況を明確にすることで、具体的に達成状況が判断できるようにしました。

また、点検・評価は、客観性を確保するため学識経験者の意見・助言を受け、教育委員会で審議し、「令和7年度教育委員会自己点検・評価報告書」としてまとめ公表することとします。

## 自己点検及び評価の構成

### 1) 項目

自己点検・評価は、「1. 教育委員会の活動」、「2. 教育委員会が管理・執行する事務」、「3. 管理執行を教育長に委任する事務」の3つの大項目で構成し、必要に応じて細分化し、項目毎に点検・評価を行いました。

### 2) 目標、重点取組事項

令和7年度香南市教育行政方針を基に「目標」及び「重点取組事項」を記載しています。

### 3) 取組の概要

各項目の目標達成に向けて、令和7年度に実施した主な取組を記載しています。

### 4) 成果、課題

令和7年度に実施した主な取組の成果と今後の課題や取組の方向性を記載しています。

### 5) 点検・評価の方法

点検・評価にあたっては、「第2期香南市教育振興基本計画」における成果指標について、令和7年度の施策の進捗状況や今後の課題等を項目ごとに評価し、4段階評価を行いました。評価の判断基準は次のとおりです。

評 価	判 断 基 準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。

### 6) 学識経験者からの意見

学識経験者からご意見、ご助言をいただきました。

氏 名	役 職
福石 賢一	高知工科大学教授

## 1. 教育委員会の活動

### [目標]

1. 開かれた教育行政の充実に努める。
2. 教育委員会、事務局、学校その他の教育機関との連携を密にし、情報意見交換を積極的に行い、円滑な教育行政の推進に努める。
3. 教育委員は、学校行事や学校訪問等の様々な機会を捉えて、保護者や地域、教育現場の意見等を聴き、課題を把握し、教育施策に反映するよう努める。

### (1) 教育委員会の会議

#### ①開催状況

会議名	回数	議案件数	報告等件数
定例会	12回	65件	33件
臨時会	5回	19件	1件
計	17回	84件	34件

#### ②運営上の工夫

議案・資料を事前に配布し内容を確認したうえで、積極的な意見交換が行えるよう努めた。また、余裕のある会議時間を設定し十分な審議が出来るように努めた。

### (2) 教育委員会と事務局との連携

適宜、協議や意見交換を行いながら、一層の連携が図れるよう努めた。

### (3) 教育委員の自己研鑽

国や県の動向を踏まえ、今日的な教育に関する課題や教育の実態をテーマとした教育委員の研修会に積極的に参加するよう努めた。

開催日	内 容	場 所
R7. 10. 31	第1回高知県市町村教育委員会連合会研修会（教育委員2名出席）	高知会館
R8. 1. 16	第2回高知県市町村教育委員会連合会研修会（教育委員2名出席）	土佐市地域交流センター 「つないで」
R8. 1. 30	四国地区市町村教育委員会協議会（教育委員1名出席）	オンライン開催

R8. 2. 13	令和 7 年度高知県市町村教育委員会連合会定期総会・ 第 3 回研修会（教育委員 2 名出席）	高知会館
-----------	--	------

#### (4) 支援・条件整備

##### ①学校訪問・支援

教育委員会による計画訪問については、市内すべての公立保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、総合子育て支援センター及び私立認定こども園で実施した。学校等の経営や教育・保育内容に対する助言・指導を行うとともに、課題解決に対する支援を行った。

訪問日	保育所名
R7. 6. 11	赤岡保育所
R7. 6. 23	野市保育所
R7. 7. 16	香我美おれんじ保育所
R7. 10. 2	佐古保育所
R7. 10. 21	吉川みどり保育所

訪問日	幼稚園名
R7. 6. 11	野市幼稚園
R7. 9. 17	香我美幼稚園

訪問日	施設名
R7. 10. 24	子育て支援センター「にこなん」

訪問日	認定こども園名
R7. 5. 21	のいち幼稚学園
R7. 6. 9	夜須こども園
R7. 9. 30	野市東こども園

訪問日	小学校名
R7. 6. 10	赤岡小学校
R7. 6. 30	香我美小学校
R7. 7. 1	野市東小学校
R7. 7. 3	佐古小学校
R7. 9. 18	野市小学校
R7. 9. 25	吉川小学校
R7. 10. 6	夜須小学校

訪問日	中学校名
R7. 5. 21	野市中学校
R7. 7. 7	赤岡中学校
R7. 7. 14	夜須中学校
R7. 9. 18	香我美中学校

##### ②所管施設訪問・支援等

所属施設の入学式、卒業・卒園式へ出席し、書面での告辞を実施した。各種行事等への参加も行った。

## (5) 広報・情報公開

広報「こうなんNOW」による情報発信を行った。

掲載月	内 容
4 月 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 卒園式・卒業式</li> <li>* 香南市スポーツ賞表彰式</li> <li>* 第 19 回香南市美術展覧会入賞作品</li> <li>* トピックス：高知東部自動車道 南国安芸道路（高知龍馬空港 IC～香南のいち IC） 開通式典での香南市こどもよさこい連合会による演舞</li> <li>* お知らせ：散歩しながら地域防災「わんわんパトロール」、香南市いきいき楽級、図書利用カード新規登録・キャンペーン、子育て・教育無料相談、就学援助の案内</li> <li>* 教育委員会会議の傍聴案内</li> <li>* 文芸：百人一首・短歌・俳句の会</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>
5 月 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 入園式・入学式</li> <li>* 教育委員会の取り組み（令和7年度香南市教育委員会重点取組）</li> <li>* お知らせ：令和7年度中央いきいき生活楽級生募集、香南市こどもよさこい連合会踊り子募集、土佐よさこいツーデーウォーク、安岡家所蔵屏風贋作と模倣の展示会、子どもの遊び場確保事業（県立のいち動物公園入園パスポート引換券送付）</li> <li>* 催し・イベント：マリンホールミニコンサート、金管五重奏 BuzzFive コンサート</li> <li>* 市役所伝言板：教育委員の任命、夜須こども園への寄附</li> <li>* 文芸：野菊の会</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>
6 月 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* お知らせ：ヘアメイク教室、令和7年度司書養成講座、コーヒー教室、「木造地藏菩薩立像」の公開が始まりました、香南市チャレンジ塾事業学習支援員、野市小放課後子ども教室運営ボランティア募集</li> <li>* 市役所伝言板：クッション型ライフジャケットの寄贈</li> <li>* 催し・イベント：香我美市民館ミニコンサート</li> <li>* 文芸：吉川町短歌をたのしむ会</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>
7 月 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 夏休みのイベント大集合：（夏ナビ）夏休みこども教室、図書館、マリンスポーツ事業</li> <li>* お知らせ：第 19 回香美・香南地区短詩型文学振興大会作品募集、文化財教室・香我美市民館趣味教養教室、香南オープンマイク出演者募集、モクテル教室、料理教室とよさこい踊り</li> <li>* 市民懇談会「香南トーク」</li> <li>* 催し・イベント：WAKUYA 作品展 2025in 香我美、ビキニの海のねがい展</li> <li>* 文芸：野市短歌会</li> </ul>

	<p>*がんばりゆう記：岳風会</p> <p>*としょかんナビ</p>
8 月 号	<p>*トピックス：櫻井つぐみ・清岡幸太郎レスリング体験教室、第21回土佐ツーデーウォーク、野市小学校4年生田植え体験</p> <p>*教育DXの取組について</p> <p>*お知らせ：焼肉のたれ作り教室、親子ヨガ教室、ヨガ教室読書ボランティア養成講座、のいち動物公園入園パスポートの引換券の送付の引換はお済みですか？</p> <p>*催し・イベント：戦後80年企画巡回パネル展「香南市の戦争遺産」</p> <p>*文芸：花野句会</p> <p>*としょかんナビ</p>
9 月 号	<p>*表紙：香南市こどもよさこい連合会</p> <p>*お知らせ：料理と音楽で楽しもう、安岡家住宅一般公開、漢詩ふれあい教室、ファミリーサポートセンター地域の子育て講座</p> <p>*こども議会開催</p> <p>*催し・イベント：一般参加型コンサート「香南オープンマイク」、宝くじ文化公演 渡辺真知子 秋川雅史ハートフルコンサート</p> <p>*文芸：百人一首・短歌・俳句の会</p> <p>*がんばりゆう記：岸本養生体操の会</p> <p>*としょかんナビ</p> <p>*香南いきいきセミナー</p>
10 月 号	<p>*幼稚園・保育施設等への入園・入所申し込みについて</p> <p>*トピックス：小学4年生から6年生の香南市内工業見学ツアー・佐古小学校自転車クラブが全国第5位に入賞、・特別栽培米の給食提供</p> <p>*お知らせ：三世代交流土佐凧づくり教室、読書ボランティア養成講座、一絃琴を演奏してみよう、夜間学級の生徒を募集します！、野市小学校「放課後子ども教室有償ボランティアさん」募集中！、【ファミサポ】子育てスキルアップ講座</p> <p>*催し・イベント：夜須公民館野外映画上映会「野生の島のロズ」、まちの文化祭、香南市成人式、のいち図書館まつり、影絵芝居「鯨生～Geio～」市内5カ所巡回公演</p> <p>*文芸：野菊の会</p> <p>*としょかんナビ</p>
11 月 号	<p>*秋の体育祭</p> <p>*お知らせ：香南市スマホ教室、第20回香南市美術展覧会、“心踊る”地域文化グランプリ、手作りクレヨン～クラフトワークショップ～、親子森林教室～きのこの原木作り～、ものづくり体験教室～ものづくりの楽しさを体験しよう～、自由絵画室～キャンパスにアクリル絵の具で描く～、第7回しおり総選挙「パンのしおり」作品募集、おりがみリース教室、田舎寿司づくり教室、のいち動物公園入園パスポートの引換えはお済みですか？</p> <p>*文芸：吉川町短歌をたのしむ会</p>

	<p>*としょかんナビ</p>
12 月 号	<p>*トピックス：市内の秋祭り・神祭</p> <p>*お知らせ：第50回三世代交流新正凧あげ大会参加者募集、ぐっすり眠る睡眠セミナー、アコースティックギター教室</p> <p>*教育委員会からのお知らせ：入学通知書の送付、就学援助費の申請受付、児童クラブ申込の案内</p> <p>*催し・イベント：「それいけ！アンパンマンチャポンのヒーロー！」、香我美図書館イベント「なんじゃもんじゃクリスマススペシャル」、野市図書館イベント「クリスマスコンサート」、0歳からのわくわくファミリーコンサート、ミュージカルシンデレラ</p> <p>*文芸：野市短歌会</p> <p>*としょかんナビ</p>
1 月 号	<p>*トピックス：吉川みどり保育所・吉川小学校合同もちつき大会</p> <p>*学校等の規模適正化の検討状況について</p> <p>*トピックス：受け継がれる伝統芸能 浅上王子宫「山北棒踊り」、野市中学校が坂本教育省最優秀賞受賞</p> <p>*お知らせ：安岡家住宅一般公開、料理教室、田舎こんにやく作り教室、会計年度任用職員募集（保育士・幼稚園教諭）</p> <p>*催し・イベント：まちの文化祭</p> <p>*文芸：花野句会</p> <p>*としょかんナビ</p>
2 月 号	<p>*成人式</p> <p>*トピックス：第50回三世代交流新正凧あげ大会、百手祭</p> <p>*お知らせ：第19回香南市長杯オープンゴルフ大会、水引でつくるコサージュ作り、香南市文化財センター文化財めぐり「手結港見学会」、香南オープンマイク出演者募集、夜須保育所・夜須幼稚園の貸し付け、【ファミサポ】音と身体で学ぶ安全対策 みんな de 楽しくリトミック」の開催</p> <p>*催し・イベント：はじめての雅楽ミニコンサートーやさしいにほんご de 雅楽一、香我美小学校創立50周年記念行事案内</p> <p>*文芸：百人一首・短歌・俳句の会</p> <p>*がんばりゆう記：赤岡民踊クラブ</p> <p>*としょかんナビ</p>

3 月 号	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 4月1日スタート こども誰でも通園制度</li> <li>* 第25回岡本彌太文学賞表彰</li> <li>* トピックス：香我美小学校創立50周年記念行事</li> <li>* お知らせ：図書利用カード新規登録・キャンペーン、多子世帯保育料軽減制度</li> <li>* 催し・イベント：一般参加型コンサート「香南オープンマイク」</li> <li>* 文芸：野菊の会</li> <li>* としょかんナビ</li> </ul>
-------------	--

(評価)

教育委員会の会議開催にあたっては、毎月1回の定例会及び臨時会を5回開催した。議案・資料を開催の1週間前までに配布して内容の事前確認を行うとともに、余裕のある会議時間を設定することにより、積極的な意見交換が図られ充実した審議が行うことができた。

学校等訪問については、教育委員全員参加の体制で臨み、現場の声や状況把握に努め、助言や支援を行った。

広報・情報公開については、教育委員会の定例会及び臨時会の開催について日時等を告示し、市ホームページに掲載を行い会議の開催について周知を行うとともに、議事録を作成し、市ホームページにて公表を行った。

また、香南市広報「こうなんNOW」に教育委員会各課の業務や取り組みの報告等を掲載し情報発信を行った。各公民館や図書館ではホームページ及びSNSの更新を行い、積極的に各種講座やイベント等の情報発信を行った。

## 2. 教育委員会が管理・執行する事務

### [目標]

議案を研究・精査し、適切な処理に努める。

#### (1) 香南市教育行政の基本方針を定めること

第2期香南市教育振興基本計画に基づき策定した「令和7年度教育行政方針」を年度当初に開催した教育委員会発会式で各所属長に説明し、それぞれの所属には資料の配布及び動画により周知を行った。また、令和8年度に向けた教育行政方針を策定した。

\* 令和8年度香南市教育行政方針について (令和8年第5回教育委員会臨時会)

#### (2) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること

\* 香南市教育委員会事務局職員の人事異動について (令和7年第9回教育委員会臨時会)

\* 職員の懲戒処分について (令和7年第15回教育委員会臨時会)

\* 教職員の人事異動の内申について (令和8年第3回教育委員会臨時会)

\* 香南市教育委員会事務局等の職員の人事異動について

(令和8年第6回教育委員会臨時会)

#### (3) 教育委員会の所管に属する各機関、委員会の委員の任免及び委嘱に関すること

\* 香南市公民館運営委員会委員の委嘱について (令和7年第6回教育委員会定例会)

\* 香南市図書館協議会委員の補欠に伴う委員委嘱について 他4件

(令和7年第7回教育委員会定例会)

\* 香南市補導センター運営委員会委員の委嘱について 他3件

(令和7年第8回教育委員会定例会)

\* 香南市スポーツ推進委員の委嘱について 他1件

(令和7年第10回教育委員会定例会)

\* 香南市立給食センター運営委員の委嘱について (令和8年第2回教育委員会定例会)

\* 香南市スポーツ推進委員の委嘱について 他3件

(令和8年第5回教育委員会臨時会)

#### (4) 予算その他、議会の議決を経るべき事件の議案及びその意見を申し出ること

\* 香南市スポーツ施設の設置及び管理に関する条例及び香南市使用料条例の一部を改正する条例案に対する意見について 他3件

(令和7年第7回教育委員会定例会)

\* 予算の繰越明許費繰越計算書の報告に係る意見聴取に関する議案 他2件

(令和7年第8回教育委員会定例会)

\* 令和6年度香南市一般会計決算認定等議案に係る意見聴取に関する議案

(令和7年第12回教育委員会定例会)

\*第119回香南市議会定例会(12月議会)に提出する予定の議案に関する意見聴取について

(令和7年第14回教育委員会定例会)

\*第119回香南市議会定例会(12月議会)に提出する予定の議案に関する意見聴取について 他1件

(令和7年第16回教育委員会定例会)

\*第121回香南市議会定例会(3月議会)に提出する予定の議案に対する意見聴取について

(令和8年第2回教育委員会定例会)

\*第121回香南市議会定例会(3月議会)に提出する予定の議案に関する意見聴取について

(令和8年第3回教育委員会臨時会)

#### (5) 教育委員会規則及び訓令等の制定又は改廃に関すること

##### ①規則

\*香南市J E T招致外国青年任用規則を廃止する規則について 他15件

##### ②告示・訓令

\*香南市放課後子ども教室事業実施要綱の一部を改正する告示について 他25件

#### (6) 教育職員並びに生徒、児童及び幼児の保健、福利及び厚生的一般方針を定めること

\*香南市立学校業務管理・健康確保措置実施計画について

(令和8年第4回教育委員会定例会)

#### 【評価】

教育委員会定例会及び臨時会に付議すべき議案について、関係する法令等の規定に基づき、研究、精査を行い、適正に事務を行うことができた。

### 3. 管理・執行を教育長に委任する事務

#### 1. 就学前・学校教育の推進

##### (1) 保幼小中連携の推進

###### 重点取組事項

###### ①保幼小中連携（一貫）教育の推進

###### ①保幼小中連携（一貫）教育の推進

###### 【取組の概要】

- ◇香南市は、子どもたちが安心して自分らしく過ごすことのできる「居場所づくり」と、他者と心を通わせる「絆づくり」を教育の核心に据え、保育所・幼稚園・認定こども園から小学校、そして中学校までの15年間を一つの連続した成長の過程と捉え、「香南市保幼小中連携カリキュラム」に基づいた0歳から15歳までの15年間を見据えた系統的な教育を推進した。
- ◇進学などの大きな環境の変化に際して、子どもたちが抱える不安を和らげ、学びと育みのバトンを円滑につなげるため、各所属所が情報を共有し、一人ひとりに寄り添った支援を行った。
- ◇教職員の指導力向上や地域が一体となった教育環境を整備することで、子どもたちの「コミュニケーション能力」、「規範意識」及び「自尊感情」を育むことを目標とし、より深い子ども理解に基づいた温かい人間関係を築き、市全体で子どもたちの健やかな成長を支える基盤づくりを行った。
- ◇中学校区連携推進研究事業として、各中学校区の教育課題解決に向けて、計画書に基づき、外部専門講師を招聘するなどして、保幼小中が連携しながら実践的研究を推進した。また、保幼小中・家庭・地域連携担当者会（年2回）において、PDCAサイクルを回しながら取組を推進した。

###### 【成果】

- ◇中学校区連携推進研究事業（全体部会、学校教育部会、就学前教育部会）では、具体的取組として「体験学習・乗り入れ授業」「教職員の交流」「子ども同士の交流」「家庭・地域・行政との連携」の4つの柱を展開した。全教職員が中学校区ごとにめざす子どもの姿を共有し、各種調査から明らかになった課題の改善に向けて対話を重ねることで、子どもたちが安心して自己発揮できる居場所づくりに努めた。
- ◇保育所・幼稚園・こども園での学びを活かす取組や、各中学校区が「めざす子どもの姿」を語り合うことで、「子ども同士で考えることで、互いが育ちあえるようにしたい」など自ら考える関わりの設定ができています。また、互いに子どもの育ちに合わせて環境構成を考え、「育ちの違う子どもたちが同じ場所を共有していくにはどのようなことがよいか」など課題意識を共有しながら話し合い、取組を進めてきた結果、発達支持的生徒指導の視点をもった連携（事前・取組・事後の話し合い）が具現化してきている。
- ◇小学校・中学校ともに新規不登校発生率が抑制傾向にあり、全国学力・学習状況調査にお

ける児童生徒質問紙の項目における肯定的回答率を昨年度と比較すると、「自分には、よいところがあると思いますか」では小学校で1.5p増加、「人が困っているときは、進んで助けている」では中学校が1.9p増加、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という項目では、小学校が2.4p増加となった。また、道徳意識調査においても、「自分の住んでいる地域が好きだ」という項目において小学校で0.5p増加、中学校で4.5p増加しており、中学校区の保幼小中・家庭・地域とともに連携し、継続して取り組んできた成果が表れている。

#### 【課題・方針】

◇子ども・保護者・地域・教職員に向けた保幼小中連携の取組の意義、価値付けの発信が不十分である。今後は、さらに子ども・保護者・地域とともに連携できる体制づくりを推進し、「魅力ある園・学校づくり」を行う。

#### 【評価】

香南市は、0歳から15歳までの連続性を重視した『保幼小中連携カリキュラム』を軸に、各所属間の情報共有と地域・家庭との緊密な連携を図ることで、環境変化への不安解消や教職員の指導力向上、さらには外部専門家の知見を活かした実践的研究を通じ、子どもたちの規範意識や自尊感情を育む温かな教育基盤を体系的に構築している。特に、自己肯定感や郷土愛が全国平均を上回っている点は、地域と連携した教育活動が子どもたちの心の土台を強固にしているものとして捉えることができる。



## (2) 家庭・地域と連携した教育の推進

### 重点取組事項

- ①地域コミュニティとの連携
- ②家庭の教育力の向上
- ③放課後の子どもの健全育成
- ④厳しい家庭環境にある子どもへの支援
- ⑤不登校への適切な対応と未然防止

### ①地域コミュニティとの連携

#### 【取組の概要】

- ◇すべての小・中学校でコミュニティ・スクール（地域学校協働本部事業）に取り組んでいる。学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって取組を進められるよう連携・協働している。  
（本部9箇所：夜須中学校区、赤岡小学校、吉川小学校、野市東小学校・野市小学校・佐古小学校・赤岡中学校・香我美中学校区・野市中学校）
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業により、安心して子育てができるような住民同士の相互援助活動の促進に努めた。
- ◇保育所、幼稚園、認定こども園、小中学校と家庭・地域の連絡手段として「すぐる」を引き続き活用し、迅速な情報発信に努めた。
- ◇子育てガイドブックの配布や、香南市子育て情報サイト「香南キッズ」を通じて、妊娠期から就学期までの助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先などの子育て関連情報を発信し、子育て施策の周知を図った。

#### 【成果】

- ◇学校運営協議会で、学校と地域が定期的な協議の場を確保ができており、効果的な取組等を話し合ったり評価したりしている。
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業を実施することにより、仕事と育児の両立を支援することができた。
- ◇香南市子育て情報サイト「香南キッズ」の登録者が19人増えた。

#### 【課題・方針】

- ◇各校の学校評価から、学校の近況や児童の生活、活動の様子を保護者や地域等への発信が十分でない実態が見られた。学校ホームページ等を通じて地域社会にも情報発信を行い、地域とのつながりを深めていく必要がある。また、コミュニティ・スクールを活用し、学校の課題解決に向けた取組方針を共有したり、見直したりし、地域に開かれた特色のある学校づくりを進める。保護者や地域の協力を得ながらの学校運営が求められる。
- ◇こうなんファミリーサポートセンター事業の実施にあたっては、ボランティアである「まかせて会員」のなり手が不足しているため、社会福祉協議会と協働して、広報誌への掲載や市内まちづくり協議会等で事業の周知を行ったが、会員の確保につながらなかった。事業周知を行う回数を増やすなどにより、「まかせて会員」の確保に努める。

- ◇公告入りの子育てガイドブックの再編集を行うとともに、子育て情報サイト「香南キッズ」の情報の充実を図っていく。
- ◇コミュニケーションツールの活用は、学校と家庭間での利用を始まりとして、地域団体への情報共有及び連絡手段として活用の幅を広めていく。

## ②家庭の教育力の向上

### 【取組の概要】

- ◇総合子育て支援センター「にこなん」や市立保育所・幼稚園・こども園において、子育て講座や講演会を開催した。
- ◇総合子育て支援センター「にこなん」での育児学級や子育て相談、健康対策課による授乳・栄養相談、パパママ教室、妊婦教室、助産師・保健師等による相談事業を「にこなん」で実施することにより、妊娠期からの切れ目のない支援に取り組んだ。
- ◇スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの活動を通して、さまざまな不安や悩みを持つ保護者に対する子育て相談や援助などを行った。
- ◇子どもたちの基本的な生活習慣を身に付けさせ、自尊感情等を育成するため、親として望ましい子育てについて啓発を行うとともに、絵本の読み聞かせ等を通じた親子のふれあいを支援した。

### 【成果】

- ◇総合子育て支援センター「にこなん」の取り組み内容の認知が進み、利用者が前年度比で1,310人増加した。
- ◇スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの協力を得ながら、保護者に対する支援が充実してきている。

### 【課題・方針】

- ◇家庭の教育力の向上を目指し、子育て相談や講演会の開催など保護者支援を引き続き充実させていく。

## ③放課後の子どもの健全育成

### 【取組の概要】

- ◇地域学校協働本部事業等により支援員を配置し、小・中学校で放課後学習に取り組んだ。
- ◇子どもたちの健やかな育ちと豊かな学びを支援するため、放課後児童クラブ、放課後子ども教室の支援員等の研修機会を確保し、資質向上を図った。
  - \*放課後児童支援員認定資格研修（3名）
  - \*放課後児童支援員研修（11回、延べ287名）
- ◇生活学習支援員を配置し、放課後学習を行うことにより基礎学力の定着を図った。

### 【成果】

- ◇年間を通して学習支援員を配置し、継続的に学習をサポートすることで、放課後の学習習慣が定着してきた。
- ◇研修に参加することで、職務を遂行するうえで必要な知識及び技能の習得と、その実践の

基本的な考え方や心得を学ぶことができた。

◇特別支援教育の専門家によるアドバイス・支援の仕方を学び、日々の対応に生かすことができた。

#### 【課題・方針】

◇家庭学習の質と量の向上を目指す。

◇子どもの居場所を確保する上で、放課後児童クラブや放課後子ども教室の果たす役割は大きい。子どもの生活や学習支援の充実を図る上でも、支援員への研修の機会を確保し支援の質的向上を目指していく。

### ④厳しい家庭環境にある子どもへの支援

#### 【取組の概要】

◇チャレンジ塾等の学習機会を充実し、子どもの育ちを促し、学力向上につながる取組の充実を図った。

◇経済的に厳しい児童生徒の給食費や学用品費などの費用を援助した。

◇学校や福祉部局と日常的に連携を図りながら、必要に応じて早期に関係機関との情報共有を図るよう取り組んだ。また、養育力等に課題がある家庭について、スクールソーシャルワーカーが家庭と関係機関をつなぎ、家庭訪問も積極的に行った。

◇スクールソーシャルワーカー等連絡協議会の開催（月1回）やケース会等を通して、スクールカウンセラーや補導センター、香南市特別支援教育アドバイザーとも連携を図り多角的なアセスメントを行うことができた。また、関係機関の情報を生かし、つなぐところはつなぎ、各学校や関係機関がそれぞれ支援体制の充実を図ることができるよう支援を行った。

#### 【成果】

◇昨年度に引き続きチャレンジ塾は4箇所で開催することができた。参加した71名（夜須公民館9人、赤岡市民館8人、のいちふれあいセンター30人、香我美市民館24人）全員が高等学校に進学することができた。

◇スクールソーシャルワーカーの活用などにより児童生徒と学校、家庭間の情報共有や連携をすすめることができ、児童生徒への支援につなげることができた。

◇就学援助制度などについては、学校との連携や協力により制度の周知徹底を図り、該当もれを防ぐための取組の推進ができた。

#### 【課題・方針】

◇就学援助制度について、ホームページや市の広報誌を利用し広く周知を図り、また学校を通して案内文書等を配布し、支援が必要な家庭に援助が行き届くように取組を進める。

◇多くの生徒がチャレンジ塾を受講し、本事業は生徒や保護者への認知度が上がっている。引き続き、支援を必要とする生徒及び保護者に塾生募集の情報周知を行い学習環境の構築と学習支援の場を提供する。

### ⑤不登校への適切な対応と未然防止

#### 【取組の概要】

◇未然防止の取組として、保幼小中が連携して「明日も来たいと思える『魅力ある園・学校

づくり』」を行っている。日頃からの学級づくりや授業づくり、児童生徒理解の視点や特別支援教育の視点等について話し合い、「おとなが居場所をつくる」こと、「子ども主体の『絆づくり』」、「のりしろ期の取組の充実」を意識して取り組んだ。

- ◇すべての児童生徒に対して魅力意識調査を行い、子どもたちの声を活かす取組や生徒指導において留意する実践上の視点（自己決定の場の提供、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、安心・安全な風土の醸成）を意識した取組を推進した。
- ◇校内サポートルームの充実や専門職との協働によるチーム支援に取り組み、不登校の兆しが見えた児童生徒の早期発見・早期対応・支援ができるようにした。
- ◇学校に通いづらい児童生徒には、教育支援センター「森田村塾」等、多様な教育機会が提供できるようにすることなど、児童生徒の実態に応じた支援体制を行い、誰一人取り残されない「学びの保障」を実現することができるよう努めている。また、校種が変わる場合には、個別の教育支援計画や引継ぎシート等のツールを活用した引継ぎやサポート会議を実施し、切れ目ない支援を行った。
- ◇森田村塾にアウトリーチ型スクールカウンセラーを配置し、各家庭等への訪問支援を行い、きめ細やかな対応を行った。

#### 【成果】

- ◇不登校の未然防止の取組として「居場所づくり」「絆づくり」、「のりしろ期の取組」の取組の充実を図ることができ、千人当たりの不登校児童生徒数が令和6年度と比較すると小学校－10.4p、中学校－10.2pとなり、不登校の改善及び新規不登校抑制につながった。
- ◇新規不登校児童生徒のうち、兆しが見られた段階で管理職・関係教員等複数における初期対応実施率は小・中ともに100%となった。
- ◇90日以上欠席している不登校児童生徒のうち、学校内外の関係機関等の相談や支援を受けている児童生徒の割合は、昨年度に引き続き100%である。
- ◇「居場所づくり」と「絆づくり」の意義を理解し、保幼小中が連携して意識的に取り組んでいる。魅力意識調査では、特に、小中学校の「みんなで何かをすることは楽しい」の数値が上昇している。
- ◇スクールソーシャルワーカー等の連絡会を毎月開催し、事例対応などへの検討を行ったり、スキルアップにつなげるため相互アドバイスなどを行ったりすることにより、児童生徒や家庭への支援の充実につなげることができた。
- ◇教育相談において保護者の思いや不安を傾聴し、学校と関係機関との連携を図り支援体制の充実に努めた。
- ◇校種間や担任等が変わっても、継続的に関わりをもつことができているスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、アウトリーチ型スクールカウンセラーの存在は、不登校傾向の児童生徒、保護者にとって安心材料の一つとなっており、また、学校や関係機関との円滑な連携において、重要な役割を担い効果を上げている。

#### 【課題・方針】

- ◇日々子どもたちに寄り添いながら、子どもたちの思いを受け止めること、初期対応を丁寧に行うこと、関係機関と連携して早期に支援体制を築くことを大切にしているが、組織的な支援体制や関係づくりに課題がみられることもあった。
- ◇中学校卒業後も視野に入れた包括的な自立支援の在り方について、関係機関とも連携した

切れ目ない支援を充実させる体制整備を行う。

◇多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進を行うため、外部専門家を活用した支援体制充実事業等の積極的な活用や、校内支援体制の充実に向けた取組を充実させていく。

◇個別の教育支援計画や引継ぎシートなど、切れ目のない組織的な支援体制の充実に努めるとともに、その活用状況について進捗状況を確認する。

### 【評価】

15年間を見通した保幼小中の組織的な連携と、関係機関や専門職を活用した多層的な支援体制により、不登校出現率が大幅に改善した。また、新規不登校への初期対応率 100%、長期欠席者への支援・相談率が 100%であり、教職員と関係機関の連携が実効性をもって機能してきている。また、「居場所」と「絆」を軸にした情緒的アプローチと、組織的な PDCA は、校種間の段差を解消する「のりしろ期の取組」として定着してきている。

今後は、課題として挙げられている「中学校卒業後の自立支援」や「組織的な支援体制のさらなる安定化」に焦点を当てることで、学校という枠組みを超えた、より包摂的な地域社会での支援モデルの構築に向けた取組も推進する。

こうなんファミリーサポートセンター事業は定着してきているものの、引き続き「まかせて会員」の確保が課題になっている。また、放課後の子どもの健全育成については、放課後児童クラブや放課後子ども教室を実施することで、子どもの居場所の確保と学習支援につながっている。今後も、放課後児童クラブの安定した運営に向けた人員の確保や支援員の質的向上を目指し、研修の機会を確保するなど継続的に取り組む必要がある。

子育てガイドブックや子育て情報サイト「香南キッズ」による情報発信は行えているが、定型のお知らせの発信にとどまっている。今後は、SNSを積極的に活用した情報発信に努めていく。

### (3) 生きる力と確かな学力の育成

#### 重点取組事項

- ①就学前教育の充実
- ②確かな学力の育成
- ③ICT機器を活用した教育の推進
- ④豊かな心の育成
- ⑤キャリア教育の推進
- ⑥人権教育の推進
- ⑦健やかな体の育成
- ⑧特別支援教育・保育の推進

#### ①就学前教育の充実

##### 【取組の概要】

◇保幼小連携・接続担当者会において、架け橋期のカリキュラム作成に向けて進め方を学び、演習・協議を行い、取り組みを行った。

◇日常的な保育所・幼稚園・こども園運営に係る諸問題から、所属長は「防災」や「医療について」、副所属長・主任は「役割と若年者育成について」の講義や演習を行うなかで、望ましい解決策等を探り、管理職としての能力向上を図った。

＊所属長研修（2回、18名）副所属長・主任研修（1回、15名）

◇就学前教育の中核を担う中堅保育士を対象に「役割や子ども学びの可能性」をテーマに協議も行いながら学びあった。また、保育実技研修や特別支援保育・教育研修等を実施し、専門性の向上を図り、保育の充実につなげた。

＊中堅保育士等研修（1回、15名）

その他、各保育所幼稚園こども園公開保育研修会（22回、218名）、

研究主任会（2回、18名）、実技研修（7回、141名）

特別支援保育・教育研修会（2回、50名）

◇総合子育て支援センター「にこなん」に保護者支援相談員を配置し、さまざまな悩みや課題を持つ保護者に対する子育て相談・指導などを行い、子育て支援に努めた。

◇市内5保育所、2幼稚園、2こども園、総合子育て支援センターを会場に、就学前の子どもを持つ保護者を対象に講演会や親子ふれあい遊びなど情報や知識だけでなく親子で楽しく遊んだりリフレッシュできるプログラムを企画し実施した。

＊地域子育て支援事業（旧安心子育て応援事業）（保幼合計18回、344名）

◇県指定のブロック別研修会を夜須こども園（8回184名）で、フォローアップ研修を野市保育所（3回60名）で行い、年間を通した研修により職員の資質向上と保育の充実にも努めた。

##### 【成果】

◇ICT機器を活用したオンライン形式による研修会も活用し、年間を通した研究保育や様々な研修会を通して、保育者の資質、専門性の向上と保育の充実につながった。各保育所、幼稚園、こども園で各園の課題に沿った実践につながる研修を主体的に計画し実践するこ

とができた。

- ◇県指定のブロック別研修及び次年度のフォローアップ研修を行い、香南ブロックにおける主体的な実践研修のためのネットワーク化の推進とミドルリーダーの育成に努めた。  
また、園の組織力アップを図り保育者の資質向上と保育の充実につながった。
- ◇管理職、中堅保育者研修等を行うことにより、自分の立場の自覚や園の実態、課題の捉え直しに取り組むことができるようになった。

#### 【課題・方針】

- ◇今後も年間を通して研修体制を整えながら計画的に研修を実施し、保育者の資質向上と保育の充実を図る。

## ②確かな学力の育成

#### 【取組の概要】

- ◇「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」の答申を受け、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて令和の授業DXにおける拠点校等の校外研修に積極的に参加することを勧奨するとともに、研修成果を自校で共有するなどして、校内研修を活性化させ、授業力向上に繋げる取組を行った。
- ◇到達度把握調査(標準学力調査)を小学校2年生から中学校3年生まで年間2回実施し(全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査の実施学年はその時期の到達度把握調査は除く。また小学校1年生は1回のみ実施)、それぞれに結果分析をするとともに、分析に基づく授業改善に努めるよう各校に通知した。同一集団の結果や指導履歴が経年で捉えられ、またPDCAサイクルが機能するように様式を変更した学力分析シートに基づく学力向上に向けた指導支援を行った。
- ◇各小学校の実態に応じて非常勤講師を配置し、専科の教員による専門性の高い授業を行った。(非常勤講師3名)
- ◇小中学校に生活学習支援員を配置し、通常学級で支援が必要な児童生徒への学習支援を行い学びの保障に努めた。(生活学習支援員14名)
- ◇香南市をモデル地域とし、野市小学校、野市中学校を拠点校とした「令和の授業DX」、香我美中学校、野市中学校、夜須中学校の「対話型AIを活用した学習支援実証研究事業」、野市中学校の「中学校組織力向上のための実践研究事業」、香我美中学校の「運動部活動指導員配置促進事業」に取り組んだ。
- ◇年間2回実施した外国語教育担当者会では公開授業を通して、学習指導要領実施にそった外国語教育の小小連携・小中連携の充実を図った。年間2回実施した中学校外国語教育推進担当者会では、英語4技能検定の結果分析をしたりするなどして、中学校の外国語教育の向上に努めてきた。
- ◇外国語指導助手(ALT)を活用することにより、それぞれの発達段階に応じた外国語指導の充実と異文化理解を促進した。
- ◇中学校3年生を対象にチャレンジ塾を実施した。

#### 【成果】

- ◇これまで継続的に実施してきた担当者会を軸に取組を継続しながら、現代的な課題や各種

学力調査等で認められた課題に対して対応する研修を計画的に実施してきた。小・中学校のそれぞれの校種での取組や学習内容を共有しながら、CAN-DO リストを見直すなど、ブラッシュアップが図れた。

- ◇「個別最適・協働的な学びの一体的充実」「主体的で対話的で深い学び」を目指し、県や市の研修会、視察研修を通して、一体的に改善に向けた取組を実施することで、着実に取組が進展してきている。授業と校務の両面から教育の情報化を推進した結果、一般社団法人日本教育工学協会（JAET）の「学校情報化認定」を3校で取得することができた。

#### 【課題・方針】

- ◇令和7年度全国学力・学習状況調査では、小学校6年生は国語科が全国平均正答率を0.8%下回り、算数科が全国平均正答率を1.0%下回った。中学校3年生では国語科、数学科、理科科のすべての教科において、全国平均正答率を下回る結果であった。
- ◇到達度把握調査、高知県学力定着状況調査結果の状況を踏まえ、学力分析シートに基づく検証改善サイクルを確実に駆動させ、各学校内だけではなく、中学校区も連携して、一層の学力向上に努めていく。
- ◇GIGAスクール構想に基づき、令和の日本型学校教育の構築に向け、クラウドを活用した個別最適・協働的な学びの一体的充実を目指す必要がある。単線型の授業から複線型の授業への転換を図り、児童生徒が主体的で自立した学び手としての意識を醸成し、授業者もその伴走的支援ができるよう授業改善が求められる。
- ◇国や県の指定事業を積極的に活用し、香南市の教育の質の向上を目指していく。

### ③ ICT機器を活用した教育の推進

#### 【取組の概要】

- ◇全ての児童生徒に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させて行くために、教職員がICTを効果的に授業で活用できる指導技術の向上を図った。具体的には、担当者会や県主催の研修会への参加、ICT支援員の訪問により、各学校のICT機器の活用場面や時期、ニーズに応じた柔軟な支援体制及び早期対応を実現する工夫や、市内校での先進取組事例紹介等の情報発信も推進した。
- ◇小・中学校に整備したICT機器及び、様々なアプリケーションをさらに効果的に活用し、個々の能力に応じた学び、子どもが互いに学び合う協働的な学び及び校務の情報化を進めていくため、ICT支援員を配置し、教員、児童・生徒へ支援等を行った。
- ◇教育DX推進担当者会を開催し、情報管理及び情報教育について協議を行い、管内の情報管理の徹底、情報教育の共通理解、指導の充実を図った。
- ◇香南市小中学校教育DX推進事業の実施計画に基づき、全小中学校において学習指導要領の趣旨を実現するため、デジタル学習基盤を効果的に活用した授業への転換を推進している。具体的には、学習者主体の授業づくりをめざし、ICTを活用した教科指導の在り方について実践的な取り組みを重ねている。

#### 【成果】

- ◇ICT活用に関するアンケートでは、小学校低学年における授業での活用頻度が30～50%で特徴的なスキル状況は、端末に慣れる、カメラや簡単な入力を行うことであり、中学年は60～70%で、検索や文字入力への自信が芽生えており、高学年では70～80%で、思考ツ

ールや図表での整理スキルが急伸し、中学校全学年が90%で「文房具」として、あらゆる教科で日常的に使いこなしていることが明らかになった。そして、中学校では小学校での積み上げを前提に全生徒が「使いこなして当たり前」のフェーズに達してきている。

- ◇中学校では、全学年で90%以上が「1日2回以上の授業」で使用しており、ICT活用スキルにおいてもほぼすべての項目で「できる（とても・そう思う）」が9割を超えている。授業外（家庭や休み時間等）での利用も活発で、生徒が自発的に端末を選択して学習するスタイルが確立されてきている。

#### 【課題・方針】

- ◇授業以外の活用率は、小学校3年生以上で安定して高い活用率を維持しているが、小学校2年生の数値が相対的に低い。発達段階に応じた活用場面の精査が行われていることや、導入過渡期であることも関係していると考えられるので、市として検証していく。
- ◇中学校では、スキルの質をさらに向上させ、アウトプットの質をさらに高める。また、活用頻度が高い分、情報の信憑性の判断や著作権への配慮など、より高度な情報モラル教育を行っていく必要がある。

### ④豊かな心の育成

#### 【取組の概要】

- ◇各校の道徳教育推進教師による道徳教育担当者会を年間2回開催し、発達支持的生徒指導の4つの視点を踏まえた授業実践と、「考え、議論する道徳」の具現化に向け、講師を招聘し指導案作成に向けたポイントや発問の仕方を協議した。また、規範意識に関する「保幼小中連携カリキュラム（小・中学校の道徳科の学習）」を作成した。
- ◇道徳意識調査及び各種調査結果を活用し、自尊感情や生活習慣、人間関係や規範意識等、それぞれの高まり具合を継続的に調べ取組の指標とした。
- ◇学校図書館支援員を小・中学校に配置し、読み聞かせ、読書環境の整備、貸し出し業務などを行い、子どもたちが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力と創造力を豊かなものにする読書活動を推進した。
- ◇小学校社会科副読本「香南のくらし」の指導資料として単元デザインの作成を進めるなど、地域のくらしや歴史、文化について知識や経験を深める教育を推進した。

#### 【成果】

- ◇毎年2回実施している道徳意識調査において「道徳の授業において、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のこと（生き方）についてよく考える」が小中学校ともに令和6年度第2回調査結果及び、令和7年度第1回目調査結果を上回る結果となった。また、中学校において道徳意識調査の10項目のうち7項目において、改善がみられた。道徳の授業における主体的・対話的で深い学びが学校現場で定着してきており、道徳教育推進教師に対しては、県の研修や市の道徳担当者会等を通じて、公開授業や研究協議、講師より実践的な学びを得ており、各校においても、公開授業や研修など道徳推進教師を中心とした協力体制のもと、組織的に道徳教育が推進されている。
- ◇道徳通信や学校だより・掲示物等を通じた児童生徒・保護者・地域との連携、価値付け、ICTを活用した教材研究が進んでいる。特に、中学校の「地域が好き」という回答が+4.5p、「家庭で取り組む高知の道徳」が+5.8p、「目標をもっている」が+2.7p、「役に立ちたい」が+1.5であり、家庭・地域との連携が進み、生徒が自己の生き方や社会と

の関わりについて前向きな意識が育ってきていることがうかがえる。

- ◇小学校社会科副読本「香南のくらし」の編集委員会では、副読本の改訂作業とともに、単元デザインの作成や資料集のデジタル化など資料サイトの充実に取り組み、改訂版の配布と教職員にむけて資料サイトの周知を図ることができた。

#### 【課題・方針】

- ◇小学校の「自分には、よいところがある」の項目では、本市内小学校7校中5校において数値の減少がみられ、そのうち4校が小学校4・5年生で数値の減少が見られた。高学年への移行に伴う自信の喪失や、他者比較の意識が強まっている可能性も視野に入れて改善に向け取組を充実させる。また、中学校では、「ネットいじめ」などの問題も深刻化しており、その未然防止に苦慮している。家庭との連携については、数値は上昇したものの依然として34.9%と非常に低い数値であることから、道德教育を学校完結にせず、いかに家庭へ繋げるか、小中連携した取組と啓発が課題となっている。
- ◇数値の維持・向上がみられた学校の取組を、市の担当者会や市のポータルサイトなどで共有する。また、多面的な自己理解を促す指導案の充実や、他者比較ではなく、自己の成長を実感させる発問例などを共有できるよう担当者会の内容の充実を図り、各校で道德推進教師が担当者会を受けて、より一層の推進を図ることができるようにする。引き続き、各校に中学生の地域愛や目標意識が高まっているというポジティブな側面を、積極的に保護者・地域へ発信することで、協力体制のさらなる強化を図る。
- ◇小学校社会科副読本「香南のくらし」では、初版から掲載している画像が現状にそぐわなくなっており、次期学習指導要領改訂時における副読本の改訂作業においては、画像の差し替えなどを含め、大幅な改定作業になることが予想される。また、資料サイトの内容がまだまだ不十分であり、包括協定を結んだ「株式会社シンシアージュ」とも連携しながら計画的に充実を図っていく必要がある。

## ⑤キャリア教育の推進

#### 【取組の概要】

- ◇子どもの発達段階に応じて、家庭教育、幼児教育、学校教育、生涯学習（社会教育）が連携して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育成するとともに、将来の生き方を考え、自己実現が図れるように支援した。
- ◇キャリアパスポートを作成し、小・中学校の9年間をかけて、各学年で作成したキャリアシートがつながる取組を支援した。県の主催する研修会において提案された内容を各学校の校内研修で周知し、その後の取組に反映させ内容の充実を図った。
- ◇地域のさまざまな人との交流をとおして体験的な職業理解、職場体験学習などを行うことで、仕事や社会人としての生き方について考え、将来に向けての自分らしい生き方に向かう態度を育てた。
- ◇地域の事業所やさまざまな人の協力を得て、中学生を中心として、職場体験学習を推進し、地域社会を支える仕事や産業についての理解を深めるとともに、仕事や社会人としての生き方について考え、将来に向けての自分らしい生き方に向かう態度を育てた。

#### 【成果】

- ◇多くの学校で地域の人との連携や地域人材の活用をするなかで、児童生徒が地域の産業理解を深めたり、職業に関する知識を獲得し意識を高めたりすることを通して、自ら考え行

動する力を高めることができた。

#### 【課題・方針】

- ◇今後も地域住民や地域企業からの支援や協力を得ながら、将来の進路意識の醸成を図るため、校外学習や職場体験学習を実施し、自分の生き方や社会との関わりについて、より主体的に考える機会を作れるように取り組んでいく。
- ◇就労で必要とされるであろう「基本的な生活習慣の確立」「学力の定着」「社会性の育成」については保幼小中連携カリキュラムとかかわりがあるため、就学前教育、学校教育等のあらゆる教育活動において身に付けることができるよう取り組んでいく。

### ⑥人権教育の推進

#### 【取組の概要】

- ◇「愛あふれ明日を拓く香南っ子」の育成を掲げ、すべての子どもの尊厳が守られ、誰もが自分らしく生きられる社会をめざし、同和教育が築いてきた「差別の現実から深く学ぶ」という伝統を大切にしながら、現代の多様な課題に対応する「自ら考え、行動する力」の育成を行っている。
- ◇自尊感情を高め、互いを認め合い支え合う共感的な人間関係づくりや、人権に関わる課題の解決をめざした、一人ひとりを大切にする人権教育に取り組んでいる。また、学級を認め合い、励まし合い、支え合える集団に育てていくために、「安心して自分の考えを言える」「失敗しても笑われない」「みんなの個性を認めている」等の学級の土台づくりを価値付けし、推進している。
- ◇各学校における人権教育全体計画、年間指導計画に基づき、11の人権課題について計画的、系統的に学習を展開するとともに、人権参観日等を実施し、保護者や家庭地域への普及・啓発を行った。
- ◇学級集団の「人権感覚」を高めるためには、教員自身が自らの「人権感覚」を磨くことが大変重要となることから、人権課題への理解を深め、人権尊重の視点に立った学級経営や学習の充実に向けた教職員研修を実施した。
- ◇全ての小中学校が、子どもたちにとって「楽しい」と感じることのできる「魅力ある園・学校づくり」を行い、その過程において「居場所づくり」「絆づくり」「のりしろ期の取組」を推進し、すべての子どもが自分のよさを生かした将来の夢・志に向かって、仲間を大切にしながら、自分の力を伸ばしていくことのできる学校づくりを行っている。
- ◇組織的・計画的な人権教育の推進に向け、人権教育主任連絡協議会や研修を通じて、人権教育の基本方針やその職務の徹底、人権教育推進上の成果や課題について共有し、充実に向けて取り組んだ。
- ◇SNS上での誹謗中傷やネットトラブル、性的指向・性自認（SOGI）、児童虐待といった複雑化する課題に対し、専門家（スクールカウンセラーやソーシャルワーカー）と連携した「チーム学校」で迅速に対応している。特に、虐待の早期発見のための「きもちメーター」の活用や、ネットモラル教育の徹底、SOGIに関する合理的配慮（制服や呼称の柔軟な選択など）を推進し、一人ひとりが安心して学べる環境を整えている。

#### 【成果】

- ◇令和8年1月実施「人権教育・生徒指導に関する取組状況調査」において、「個別の人権課題に関する校内研修及び授業研究を年間計画に位置付け、実施している」学校は100%、

「子どもの人権（虐待・不登校・貧困等）」「いじめの問題について」実施率は100%、「インターネットによる人権侵害について」実施率は小学校71.4%・中学校100%であった。各学校においては、児童生徒の実態に合わせ、計画、実践、評価、改善を繰り返し、人権意識が高まるような授業実践、教育活動が展開できている。

◇児童生徒の自尊感情や自己有用感等を育む、発達支持的生徒指導の視点を学校・学級経営や授業づくり、学校行事等の取組に位置付けて組織的に実施している学校が、100%であった。（令和8年1月実施「人権教育・生徒指導に関する取組状況調査」より）

#### 【課題・方針】

◇単なる知識の習得にとどまらず、子どもたちが差別や偏見を「自分たちの課題」として捉えることを重視している。中学校での生徒主導による校則の見直しや、いじめ防止対策基本方針への児童生徒の参画は、民主的な社会を支える貴重な実体験となっている。「きまわりを守らされる」のではなく、自分たちで「より良い納得解」を導き出す経験を通じて、多様性を尊重し合う精神を養うことをめざして取組の充実を図る。

◇人権意識が高まり定着していくためにも、あらゆる教育活動を通して人権教育に取り組んでいく。また、人権への配慮に欠けた言動に気付いたとき、教職員間で指摘し合う関係づくりに向け、定期的な啓発を行う。

◇蓄積されたデータや好事例を市全体で共有し、どの学校においても質の高い人権教育が受けられる体制整備を行う。また、不登校や家庭の困難を抱える子どもたちへの学習支援（チャレンジ塾など）を継続し、誰一人取り残さない教育を推進する。

### ⑦健やかな体の育成

#### 【取組の概要】

◇家庭や地域と連携して「早寝 早起き 朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図るよう取り組んだ。

◇発達段階に応じた適切な性教育や保健安全指導を行い、健康づくりにおける自己管理能力の育成を図った。

◇保護者に献立表や給食だよりの配布を行う等、望ましい食習慣の形成が図れるよう啓発に努めた。

◇栄養教諭等による、食物の働きや栄養指導及び正しい食事のマナーの指導など食育の推進に努めた。

◇旬の食材等、生産者の心のこもった安心・安全な地場産品を学校給食へ積極的に取り入れ、バランスのとれた献立を実施した。

◇保幼小中食育推進運営委員会では、親子料理教室の開催時期や献立など計画を立て、実施に向けて取り組んだ。また、「食育だより」の作成・配布を行った。

#### 【成果】

◇食育だよりでは、保育所・幼稚園・こども園は「朝ごはん」をテーマに朝食と朝食の効果の内容を作成した。小学校中学校は「親子料理教室」をテーマに親子料理教室の実施内容や参加者の感想を掲載し、作成をした。各学校・保育所・幼稚園・こども園では給食だよりを発行し、食に関する啓発を行っているが、所属長会を通じて「食育だより」を配布することで、子ども達や保護者だけではなく全体で食育を考えるきっかけづくりとなった。

- ◇各学校で全体計画に基づいた食に関する指導や給食時間の指導が行われ、特色ある食育推進の取組により、ねらいに沿った成果が得られた。
- ◇小学校5年生、中学校1年生、中学校2年生を対象としたそれぞれの料理教室で事前事後のアンケート調査を実施し、朝食内容についてより詳細に分析を行うことができた。
- ◇食育の日に限らず、香南市農林水産課や公益社団法人香南市農業公社と連携して、地場産物を活用した学校給食の提供を行うことができた。
- ◇乳幼児期は保護者の影響を受けやすい時期なので、参観日や給食日より等を利用して、保護者への啓発を実施した。

#### 【課題・方針】

- ◇令和7年度全国体力・運動能力・運動習得等調査結果を踏まえ、課題の見られた内容については、校長会でポイントを絞って状況を共有しながら、体育の授業での運動量を増やすなど授業内容の見直し、充実を行うとともに、授業前、授業間等の運動機会の確保、年間通じた取組の継続等、児童生徒の運動習慣の確立にも取り組むことを通して改善を図る。
- ◇小学校5年生と中学校1年生の料理教室は、食生活改善推進協議会やJ A女性部のご協力をいただき、栄養教諭がコーディネーターとなり、役割を果たしながら継続的に取り組んでいる。中学校2年生では、健康対策課と連携し、コッ骨青春講座を実施している。いずれの取組も継続的に実施することで、地場産物への理解や食・健康に関する意識の向上につながっているが、単発的な学習になりがちである。学習内容をその後の学習や家庭学習につなげる等、児童が望ましい食習慣を身に付けられるような手立ての工夫が必要である。
- ◇望ましい食習慣の確立や健康な体づくりを目指し、家庭や地域と連携しながら食育を推進していく。
- ◇料理の機会や経験が少ない親が増えているため、そこに対しての意識付けが課題であり、今後も、保育・幼稚園等と連携した食育事業、健康対策課によるパパママ教室や乳幼児健診での指導、総合子育て支援センターでの栄養相談を継続し、朝食摂取について更なる啓発を行っていく。

## ⑧特別支援教育・保育の推進

#### 【取組の概要】

- ◇障害のある子どもたちに適切な指導が行えるよう、教育環境を整備し、特別支援教育支援員の配置や教職員研修を充実するなど支援体制を整えた。（研修会：2回）
- ◇高知県教育委員会や関係機関と連携して適切な就学指導を進め、障害の種別と特性に応じた教育課程の編成を行い、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育を進めた。
- ◇効果的な通級指導の在り方を研究し、ADHD（注意欠陥／多動性障害）やLD（学習障害）などの子どもたちの特性に対応した教育を推進した。
- ◇特別支援学校や専門機関との連携を進め、特別支援教育支援員を有効に活用しながら、一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすことのできる取組を進めた。
- ◇就学前から特別な支援を必要とする子どもへの適切な指導援助を行うため、専門コーディネーターを配置し、教職員の資質向上に取り組むとともに、効果的に子どもの成長発達を支援することに努めた。
- ◇「個別の指導計画」が必要な児童生徒数のうち「個別の教育支援計画」等のツールを活用

して引継ぎを行う日時について市が把握し、引継ぎの場に同行している。また、新入生についての引継ぎ内容を生かした支援が行われているのか、アドバイザー訪問で確認を行い、指導・助言を行っている。

- ◇特別な支援を必要とする子どもに対する早期対応への取り組みとして「いきいき香南っ子相談事業」（就学前～小学校低学年対象）を実施した。就学への引継ぎも踏まえ、年長児対象の相談には香南市特別支援教育アドバイザーやスクールソーシャルワーカーも出席している。（相談 23 回、フォローアップ 20 回）
- ◇療育福祉センター発達障害者支援センター地域マネージャーによるティーチャーズトレーニング（2 園 712 回）、保育者コンサルテーション（3 所園 26 回）を年間通して受けることで個別の事例研修の充実を図った。

## 【成果】

- ◇香南市特別支援教育アドバイザーによる各学校の巡回訪問では、特別支援教育の視点を踏まえた学校経営、学級経営の推進・充実に向け、指導・助言を行うことで、学校の支援体制の構築、組織的取組を推進することができた。
- ◇香南市特別支援教育学校コーディネーター等研修会では、支援を要する子どもの理解と具体的な指導・支援について、特別支援教育士スーパーバイザーから学び、日々の指導に生かすことができた。
- ◇いきいき香南っ子相談事業では保育者や教職員の資質向上が図られ、保護者対応も含め個別の指導計画・環境調整など、計画的な特別支援保育・教育の取組となっている。
- ◇研修では「体の発達と感覚」と題しての講話を実施し、年齢に応じた運動発達や感覚との関係について会計年度任用職員も共に学ぶことで、同じ方向性を持った支援へつながっている。子どもの理解やその対応・支援・発達を促す運動遊び等を担任と共有することでクラスにおける特別支援保育・教育の充実がみられる。
- ◇ティーチャーズ・トレーニングは受講対象所園を決めて実施し、令和 7 年度に市内全所園の受講が終了した。教職員の異動等はあるが、これまでに同じ学びを持ってきたことで子どもの行動の理解とその支援を所園の教職員間で考え共用し実践するといった組織で子どもの発達を支援することができており、所園の特別支援保育・教育の向上、推進につながっている。

## 【課題・方針】

- ◇共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築が不十分である。個別の教育的ニーズに的確に応える指導を提供できるよう基礎的環境整備及び合理的配慮の提供の充実など多様な学びの場の充実を図る。また、「外部専門家を活用した支援体制充実」や「サポート事業」などを積極的に活用し、支援体制の充実を図ることができるよう啓発する。
- ◇「個別の教育支援計画」等のツールを活用して引継ぎを行うことについては、100%実施できている。今後は、引継ぎ内容が切れ目のない支援に生かされているのか 1 年次には確認しているが、その後、2 年次、3 年次と進級する中で支援が切れていないか確認を行い、指導・助言を行う体制を構築する。
- ◇専門機関との連携を密にすることで、指導方法や支援体制の充実を図る。
- ◇いきいき香南っ子相談事業の活用と県療育福祉センターの支援による保育者コンサルテーション及びティーチャーズトレーニングを順次実施してきた。各所園特別支援コーデ

ィネーターと連携して各所園の特別支援保育・教育支援の充実と所園内の体制強化を引き続き行っていく。

◇市健康対策課との連携による早期対応や、いきいき香南っ子相談等の年長児相談への市教委学校教育課、スクールソーシャルワーカーの参加により就学における引継・連携などを継続して行い、子どもの理解や就学後の支援へつなげていく。

### 【評価】

I C T機器を活用した教育の推進では、香南市のこれまでの取組はインフラ整備の段階を終え、「個別最適な学び」を生徒自身がI C Tを自分で選択して実践する「自律的学習」の段階に順調に移行しているといえる。今後は、活用スキルの差を埋めるだけでなく、デジタルを使いこなした上での「深い学び（アウトプットの質）」をどう担保するかを意識して推進していく。

豊かな心の育成では、保幼小中連携の強固な基盤を活かしつつ、各種調査分析等を通じてP D A Cサイクルを機能させている。特に、道徳意識調査の結果では、中学生の地域愛や目標意識の向上といった成果が見られた。学校図書館支援員の配置や郷土資料の活用といった多角的なアプローチに加え、道徳教育推進教師を中心とした組織的な研修体制が「考え、議論する道徳」の質的向上を支えている。今後は、「学校完結」に留まらない家庭・地域との双方向の連携をさらに深めることで、子どもたちの成長を地域全体で支える「豊かな心の育成」がより一層強固なものになるよう取組を推進する。

人権教育の推進では、「愛あふれ明日を拓く香南っ子」の育成を掲げ、同和教育の伝統を継承しつつ、S O G Iやネットトラブル等の現代的課題にも「チーム学校」で迅速に対応し、全小中学校で人権課題に関する研修や発達支持的生徒指導が組織的に実施されている。一方で、今後は知識の習得に留まらず、校則の見直し等の主体的・民主的な活動を通じて、子どもたちが差別や偏見を自らの課題として捉え、よりよい納得解を導き出せる「行動する力」のさらなる定着と、教職員間の相互啓発体制の強化を推進する。

特別支援教育・保育の推進では、専門アドバイザーの巡回や全スタッフ対象の研修を通じて、個々のニーズに寄り添う組織的な支援体制を確立し、就学時の情報引継ぎ実施率100%という高い成果を上げている。今後はインクルーシブ教育のさらなる充実に加え、進級後も支援が途切れることなく続くための長期的なフォローアップ体制の構築に注力していく。



## (4) 教育活動を支える体制の充実

### 重点取組事項

- ①教職員の資質向上とマネジメント力の強化
- ②相談支援体制の充実
- ③生徒指導の充実
- ④教職員の働き方改革の推進

### ①教職員の資質向上とマネジメント力の強化

#### 【取組の概要】

- ◇中学校区連携推進研究事業や保幼小中・家庭・地域連携担当者会を中心に、保幼小中が連携して、共に取り組むべき課題等について、各主任会・担当者会を計画的に実施し、情報交換や指導・支援の在り方について、協議を通して共通理解を図り、共通実践を行った。
- ◇各小・中学校の学校経営計画、各種学力調査分析、校内研修推進計画に基づく取組や県指定事業等を活用して継続的に指導・支援することで、授業研究を中心にした授業改善に取り組んだ。中学校では、東部教育事務所と連携し授業改善プランに基づく検証改善サイクルを意識した年間を通じた教育活動に取り組んだ。
- ◇市内保幼研究主任会の実施（2回、18名）
- ◇学校組織における総務・財務等に通じる専門職である事務職員が、より主体的・積極的に校務運営に参画するための体制づくりを行う。

#### 【成果】

- ◇異校種間で、目指す子ども像を共有したうえで、学力向上に向けての具体的な取組について協議することを通して、共通理解を図り実践につなげた。
- ◇保幼研究主任会では、各園の研究を進めるにあたり具体的に情報交換や協議を行うことで他園の取組を学ぶことができ、研究主任の心強さをもって役割を果たすことにつながった。
- ◇学校における事務職員の学校運営への参画を進められるよう、所属長会等で各校への周知を図っている。

#### 【課題・方針】

- ◇GIGAスクール構想に基づき、授業改善を含め、校務の効率化等の教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の促進を図り、そのための研修会や先進地視察などを実施していく。
- ◇引き続き共同学校事務室において、業務の効率化や公金に関わる研修等の実施による事務職員の育成及び資質の向上を図り、事務職員の主体的かつ積極的な校務運営への参画を推進していく。

## ②相談支援体制の充実

### 【取組の概要】

- ◇就学移行期にスマイルサポート支援ファイルを作成・活用し、関係者間の情報及び認識の共有化、保育所、幼稚園・こども園から小学校での教育支援の円滑な移行を図った。
- ◇子どもたちの大切な命を守ることを目的に、いじめや児童虐待に対応する校内体制の整備と見直しを図り、絶えず子どもたちのサインを見逃さない取組と情報の共有化を進め、関係機関との連携をとりながら対応を強化するよう取り組んだ。
- ◇各中学校区に1名ずつスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの居場所づくりを進め、全ての長期欠席児童生徒への支援をめざして、様々な態様を持つ不登校の子どもたちや保護者への支援や取組を行い、実態に応じたソーシャルワークができるよう学校との連携体制を構築すべく取り組んだ。
- ◇小・中学校保護者対象の「ほのぼの相談」を開設し、課題を抱える子どもと保護者の支援に取り組んだ。令和3年7月からは、保幼小中の他、高校、卒業生、家族等を対象にした「子育て・教育相談」を実施している。また、子育て支援センター「にこなん」での相談は、未就学児に関して来所・電話で常時実施した。

### 【成果】

- ◇各校で実態に応じた特色のあるスクールカウンセラーの活用ができた。
- ◇スクールソーシャルワーカーが4人体制になり、連絡協議会や研修を充実させることにより、きめ細かな支援体制と関係機関との連携が図られた。

### 【課題・方針】

- ◇スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置については、児童生徒・保護者・学校への支援を考え効果的な配置を継続していく。
- ◇専門機関との連携を密にしながら教育相談体制の充実を図っていく。
- ◇小学校保護者対象の出前子育て悩み相談室を開設し、子どもの性格や特性に合ったコミュニケーションの取り方を学び、親子間で起こるミスコミュニケーションの改善や保護者自身のストレスケアにも役に立つ機会を提供する。
- ◇子どもたちや保護者の悩み・不安に対応するための教育相談活動を引き続き行い、不登校やいじめの教育課題に対して、関係機関と連携しながら適切な対応に努める。
- ◇課題を抱える子どもとその家族への理解と支援の在り方を学ぶため、行政職員や事業所職員を対象に、当事者・家族会・専門機関支援者等による研修を実施する。

## ③生徒指導の充実

### 【取組の概要】

- ◇子どもが自己指導能力を獲得することを支える生徒指導として、様々な教育活動を通して、子どもが自分事として課題に挑戦したり、仲間や地域の人々と協働しながら創意工夫することを通して、「自分でやってみることや仲間と協働することのよさ」を実感できるよう工夫して取り組んだ。具体的には、生徒指導の実践上の留意する視点として、①自己存在感の感受②共感的な人間関係の育成③自己決定の場の提供④安全・安心な風土の醸成の4つを作用させることができるよう取り組んだ。

- ◇発達支持的生徒指導の考え方を踏まえ、子どもたちの経験や学びを活かす取組として「のりしろ期の取組」の充実を図った。具体的には、各中学校区の保育士・教職員が子どもの具体の姿を中心に話し合い、めざす子どもの姿を確認しながら、子どもが活躍できる場を意図的・計画的に設定して取り組んだ。
- ◇全小・中学校の全学年に対し、年2回の i-check を実施し、その分析結果から児童生徒理解を深め、温かい学級・学校づくりに努めた。また、年3回の魅力意識調査を活用し、子どもたちの声に基づいた「居場所づくり」「絆づくり」の取組にPDCAを回して取り組んだ。

#### 【成果】

- ◇生徒指導上の諸課題の状況については、不登校発生率で比較すると、令和6年度は小学校0.8人（全国2.30人）、中学校3.81人（全国6.79人）であった。小・中学校ともに不登校発生率は令和4年度より全国平均以下となっている。
- ◇魅力意識調査において、各中学校区において小学校6年生から中学校1年生の強肯定の割合の差を昨年度より小さくすることができてきた。また、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査「学校に行くのは楽しいと思う」と回答した児童生徒（小学校6年生、中学校3年生）の割合が、令和6年度より小中学校ともに増加している。
- ◇校長会において、高知工科大学の講師に来て頂き、継続的調査に係るアンケート等の結果に関する分析について講話頂き、自校の児童理解に活用することができた。

#### 【課題・方針】

- ◇家庭環境の変化による児童生徒の不安や愛着障害に起因するもの、様々な要因による無気力や不安、家庭の押し出しの弱さ等がみられた。児童生徒理解研修や、関係機関との連携、校内支援会と個別の支援会を行っているが、組織的な早期の支援体制づくりをさらに充実させる必要がある。
- ◇i-check や学校生活のアンケート等の結果を漏れなく早期に活かす取組事例を共有し、組織的な支援体制を定期的に確認する。

#### ④教職員の働き方改革の推進

##### 【取組の概要】

- ◇デジタル学習基盤、校務支援システムや共有フォルダの活用、オンライン会議、電子版のアンケート等校務DX化を進めている。
- ◇保護者用連絡ツール（すぐーる）を運用している。
- ◇長期休業中の早出遅出出勤や各学校における定時退校日や長期休業中の自主的な閉庁期間を設ける取組を行っている。
- ◇児童生徒の負担軽減（学びの質の向上）と教員の負担軽減（働き方改革）を目的として標準を大きく上回る授業時数や、校時表を見直したりしている。

##### 【成果】

- ◇各校の校務DX化が進み、例えばポータルサイトで校内・教育情報を一元化することによりペーパーレスや情報にアクセスしやすくなることで教職員の業務の効率化や負担軽減につなげようとしている。
- ◇統合型校務支援システム（すぐーる）の運用により、家庭への配布物が少なくなり、印刷する時間や印刷費用が削減され、事務処理に関わる業務が軽減されている。

##### 【課題・方針】

- ◇教員の時間外勤務年間 360 時間以内が 46.8%となっている。教育DXが進み、教職員の業務の効率化が進んできてはいるが、個別の教育的課題に対応するため、研究や研鑽等が常に必要であり、教師自身の高い責任感等から時間外在校等時間が減少しにくい実態がある。また、中学校は特に部活動業務の負担がある。
- ◇「香南市立学校の業務量管理・健康確保措置実施計画（R8.4.1 施行）」のもと、教員の肉体的、精神的な負担を軽減してワーク・ライフ・バランスを促進し、本来業務である授業改善や生徒指導等に充てられる時間の確保や時間外在校等時間の削減を行っていく。

##### 【評価】

相談支援体制の充実については、相談体制の多層化と連携の強化が進んだ。今後はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの効果的な配置を継続しつつ、行政や事業所、各所属所と連携した研修を通じ、家庭や当事者への理解を深め、地域全体で支える「教育相談体制」のさらなる深化を図る。

生徒指導の充実については、「自己存在感」「共感的関係」など4つの視点を軸とした発達支持的生徒指導を推進し、保幼小中の連携（のりしろ期の取組）や、i-check・魅力意識調査によるPDCAサイクルの確立により、児童生徒の主體的・自治的な活動が活性化した。その結果、不登校発生率は小・中学校ともに全国平均を大きく下回る水準（小学校0.8人、中学校3.81人）を維持している。また、全国学力・学習状況調査においても「学校に行くのが楽しい」と回答する児童生徒が増加しており、学校が「居場所・絆」として機能していることが示された。未然防止には成果が見られる一方、「初期対応の組織的なバラつき」や「継続不登校児童生徒への自立支援」に課題が残る。今後は、教育支援センター

「森田村塾」との連携強化や、家庭環境・愛着障害等の多様な背景に即した早期支援体制の再構築を急ぎ、組織として「誰一人取り残さない」指導體制を強化する。

教職員の働き方改革については、今後は香南市立学校の業務量管理・健康確保措置実施計画（R8.4.1 施行）」のもと、部活動の地域展開に向けての協議を含む「業務の3分類」を踏まえた香南市の業務の見直しや教育職員の健康及び福祉の確保に関する取組を行っていくことが求められる。教育委員会としても状況の把握や体制整備等を行っていく必要がある。

## （5）保幼小中の教育環境の充実

### 重点取組事項

- ①学校・保育施設の環境整備
- ②防災教育等の推進
- ③子育て支援サービスの充実

### ①学校・保育施設の環境整備

#### 【取組の概要】

◇教育施設等の老朽化に伴い、ゆとりや潤いのある保育・教育の場として、計画的な改修・改築に努め、施設・設備の充実に努めた。

\* 体育館トイレ洋便器化工事（各小中学校）

\* 渡り廊下屋上防水工事（野市小）

\* 地域連携室他空調機取替工事（野市小）

\* プールサイド改修工事（野市東小）

\* 高圧機器更新工事（佐古小）

\* グラウンド改修工事（香我美小）

\* 調整池維持修繕工事（香我美小）

\* 駐輪場舗装改修工事（香我美中）

\* 駐車場舗装改修工事（森田村塾）

\* 防犯カメラ設置工事（夜須こども園を除く、全ての保育所、幼稚園、こども園）

\* 屋根改修工事（佐古保育所、野市保育所）

◇令和3年1月に土砂災害特別警戒区域に指定された佐古小学校北側の急傾斜地対策については、関係者との協議・用地交渉を経て、令和4年2月に香南市が用地を取得し、令和6年1月に高知県における急傾斜地崩壊対策工事が完成となった。令和8年度、高知県から香南市への意見照会を経て校舎の土砂災害特別警戒区域は解除される予定となっている。

◇新たなニーズに対応する教育・保育施設を計画的に整備することに努めた。

◇教育内容や指導方法の多様化に対応した教材・教具の整備充実に努めた。

- ◇教育・保育施設の遊具等について、定期的な点検、補修等を実施し、安全確保に努めた。
- ◇感染症対策として、アルコール消毒液・使い捨て手袋などの衛生用品の整備充実に努めた。
- ◇主に通学に使用する道路又は周辺環境の安全整備に努めた。

#### 【成果】

- ◇体育館トイレ及びグラウンドの改修等、計画的な環境整備を実施した。
- ◇学校等規模適正化の取組については、令和7年7月に児童・生徒を対象とした「香南市学校等の規模適正化に関するアンケート」を実施し、8月には教職員を対象としたアンケートを実施した。これらの結果を分析し、規模適正化検討報告書及び概要版を作成した。来年度は保護者を対象としたアンケートを実施する予定である。各アンケート結果を踏まえ、11月には保護者等への説明会を開催し、規模適正化に関する意見交換を行う。最終的には、規模適正化に関する基本方針（素案）を策定する。
- ◇通学路合同点検を実施し、関係機関の協力のもと安全性の向上が図れた。
- ◇通学用自転車ヘルメットを購入し、自転車通学をする児童生徒の安全性の向上が図れた
- ◇防災ヘルメットを購入し、市内児童生徒及び教職員の安全性の向上が図れた。

#### 【課題・方針】

- ◇外壁や屋上防水、給排水設備など園舎、校舎等の老朽化が多く施設で見られ、大規模な改修が求められている。緊急性も加味しながら計画案を作成し、順次対応していく。
- ◇児童生徒の安全の確保を優先に考え、危険箇所等の修繕については迅速に対応していく。
- ◇今後も遊具の定期点検などを行い、必要な修繕を実施し安全確保に努める。
- ◇施設の環境整備とあわせ、引き続き基本的な感染症対策の徹底に努める。
- ◇適切な管理運用のもとで、教材備品の適正な整備に努める。
- ◇学校等規模適正化については、学校生活や学級規模に関すること、学校のよさや地域との関わりなどについて児童・生徒、保護者、教職員にお聞きしたアンケート結果の分析を行う。結果がまとまり次第、保護者や地域の方への説明や意見交換を実施し、規模適正化の取り組みを進める。
- ◇通学路合同点検を継続して実施し、安全性の維持及び向上に引き続き努めていく必要がある。

## ②防災教育等の推進

#### 【取組の概要】

- ◇各学校では、学校管理運営計画書の見直し時期や防災に関する取組に合わせ、学校防災マニュアル、危機管理マニュアルを見直すとともに、防災教育の推進に取り組んだ。
- ◇日頃からの危機管理マニュアルの周知徹底を図り、事故や災害に強い施設や環境の整備に努めた。
- ◇事故・災害等が発生した後の児童生徒等の心身の健康状態の把握方法や関係機関、専門家との連携、教職員の心のケア等の対応方法について職員間で共有した。

#### 【成果】

- ◇学校安全プログラムを活用した年間5回以上の防災教育を実施することができた。
- ◇全小中学校で危機管理マニュアルの見直しの機会を設定することができた。

#### 【課題・方針】

- ◇自分の命は自分で守ることができる児童生徒の育成を目指し、今後も年間3回以上の避難訓練の実施、年間5時間以上の防災学習の実施を徹底する。また避難訓練においては、状況設定を意図的に変化させるなど、多様なシミュレーションを取り入れるように取組を推進する。
- ◇子どもたちの安全への意識や災害への備えを含めた実践的態度を高めていく。
- ◇災害発生時の避難行動や、発生後の避難生活について、学校等の立地場所や周辺環境に応じて、想定される災害の状況が異なることから、保護者への引き渡しや子どもたちへのケアなどできるだけ具体的に想定し、学校等と家庭、地域が連携した活動に拡充していく必要がある。

### ③子育て支援サービスの充実

#### 【取組の概要】

- ◇子育て支援センターの親子のひろばは、平日は午前9時～午後4時まで、土曜日（R7年度より第2・第4土曜日を毎週土曜日へ拡大）は午前9時～午前11時30分まで開設し、毎週第3金曜日の午後及び保育所における家庭保育協力日に合わせて「にこなんであそぼう！」と題して、利用対象者を未就園児に限定せず、市内市外問わず就園児の利用拡大を行った。病後児保育施設については午前7時30分から午後4時30分まで開設した。また、出張ひろばについては、野市東こども園（月曜日、R7年度より実施）、香我美おれんじ保育所（火曜日）、夜須こども園（木曜日）いずれの園においても午前9時から12時まで開設した。

#### 【成果】

- ◇子育て支援センターの毎週土曜日開設により、利用者が増加し、平日に子育て支援センターを利用できない家庭にも支援センターを利用できる機会の確保ができた。

#### 【課題・方針】

- ◇今後も子育ての世代の負担軽減を図るため、サービスの充実に努める。
- ◇相談支援
  - ・支援を必要とする家庭で、香南市総合子育て支援センターの利用につながっていない親子へのアプローチをしていく。
  - ・利用者からの子育ての相談に応じ、実情の把握に努め、相談内容や利用者等の状況などに応じて情報提供や助言、支援につなげる。また、内容に応じて保健師や保育所と情報を共有し一緒に支援していく。
  - ・こども家庭センターに、迅速かつ適切に情報共有、連携し、必要な支援につなげられるようにする。
- ◇幼稚園の長期休業中の配食サービス、保育所等での使用済み紙おむつの処分を継続実施する。

### 【評価】

子どもたちの安心安全を第一に考え、適切な施設管理を行うとともに、修繕や改修等を計画的に進めていくことができた。

通学路の安全点検を行い、危険個所を主として各関係機関が連携を図り、短期的又は長期的対策の実施及び検討により児童生徒の安全確保に努めた。

学校内の施設及び設備等における毎月1回の定期点検を継続的に実施し、遊具等の修繕を迅速に実施し、施設の安全確保に努めた。

幼稚園の長期休業中における配食サービスの実施により、保護者負担の軽減につながった。また、子育て支援センターの毎週土曜日開設や毎月第3金曜日の午後及び保育所における家庭保育協力日に合わせて「にこなんであそぼう！」と題して、利用対象者を未就園児に限定せず、市内・市外問わず就園児の利用拡大を行ったことにより、平日利用ができなかった家庭や父親の参加が増えたり、就園児の利用促進につながるなど、子育て支援サービスの充実を図り、子育てしやすい環境整備に努めることができた。

学校等の規模適正化に向けた取組については、もっと時間をかけて保護者や地域住民との意思の疎通を図ることが重要であるとの認識の下、再編案の提示は行わないこととしたが、新しい時代の変化に対応した教育の推進が求められている中、最善の教育を行っていくためにも、規模適正化の取組は必要不可欠である。当事者である児童生徒や教職員の声も参考にしながら、保護者、地域住民の方々との意見交換の場を重ねることに留意し、防災および財政上の観点からもできるだけ早期に基本計画を策定するよう取組を進める。

## 2. 生涯学習の推進

### (1) 生涯にわたる「まなび」の展開

#### 重点取組事項

- ①ライフステージに応じた「まなび」の充実
- ②「まなび」の広報・周知
- ③さまざまな分野に関する「まなび」の提供

#### ①ライフステージに応じた「まなび」の充実

##### 【取組の概要】

- ◇人生 100 年時代を見据え、市民が生涯にわたって豊かでいきいきとした人生を過ごせるよう、多様な学習機会に恵まれる必要があり、本市では、幼少期から高齢期までライフステージに応じた様々な学習や体験等の提供に取り組んでいく。
- ◇本年度も、青少年育成香南市民会議等の活動の支援や公民館における各種の催事や教室等の開催、多様な学習機会の提供により、一人ひとりの自己実現に向けた学習を行える環境づくりに努めた。特に、香南市こどもよさこい連合会の取り組みや実行委員会形式による成人式の開催は、子どもたちや成年たちに自信や連帯感をはぐくむ有意義な取り組みであり、青少年たちの健全育成に大きな役割を果たした。

##### 【成果】

- ◇それぞれの図書館において子どもが幼少期から読書に親しめる環境づくりに努め、合計 97 回の読み聞かせを行い、443 人の参加者があった。
- ◇青少年健全育成の取り組みとして、香南市こどもよさこい連合会には、小学校 4 年生から中学校 3 年生までの 99 名の参加があった。2 年ぶりの参加となった「第 72 回よさこい祭り」に衣装や地方車のデザイン等を一新し参加した。子どもたちにとっては、他校の子どもたちとの交流や踊りを通しての達成感など貴重な経験となった。また、三世代交流事業とし今年度は「三世代交流パークゴルフ」、「三世代交流土佐凧作り教室」、「三世代交流新正凧あげ大会」、「三世代交流モルック大会」の 4 事業を実施した。「三世代交流パークゴルフ」には 5 家族 16 人の参加が、「三世代交流土佐凧作り教室」には 15 家族 28 人の参加があった。記念すべき 50 周年を迎えた「三世代交流新正凧あげ大会」には、凧作り教室に参加した子ども含め、市内外の就学前の子どもたちから中学生まで 1,000 名の参加があった。特に小さな子ども達の中には祖父母と参加し、一緒に凧あげを楽しむ姿が見られ、土佐凧文化の継承と三世代交流を図ることができた。
- ◇成人式は、20 歳の方に実行委員になっていただき企画等について協議を重ねた。県内外で活躍されている香南市出身の先輩方をお招きし、新成人のこれからの人生を応援するメッセージをいただいた。体験談などを踏まえたお話を聞くことができ、対象者のみならず出席された方々にとっても大変有意義な時間となった。
- ◇各公民館において、夏休みに予定していた講座はすべて開催した。また、年間を通して子どもの学習や高齢者学級、趣味・教養に関する教室など合計 127 回の多様な講座や教室等を開催し、学びの場を多くの世代に提供し、延べ 2,715 名の方が「まなび」の場に参加し

た。

#### 【課題・方針】

- ◇読書に親しめる環境づくりとして、読み聞かせの実施は大変効果的であり、今後も継続して実施していくが、実施回数については、令和7年度より、香我美図書館でのお話の会をすべての土曜日で開催するよう拡大変更したことに加え、図書館職員もできる限り保育所・幼稚園などの現場に出向き、イベントや参観日などで読み聞かせを行い、今後の参加人数の更なる拡大へと繋げる。また、イベント開催時の読み聞かせ参加人数の拡大に向け、SNSやホームページでの告知に一層努める。
- ◇子どもよさこいの取組は、練習動画のYouTube配信を行うなど習い事や部活等で練習への参加回数が少なくても、参加しやすい環境作りを進めていきたい。また、保護者連絡のデジタル化等を行い保護者負担の軽減を図るとともに、参加者が市内全域に広がるように周知していく。
- ◇新正凧あげ大会は、青少年育成をはじめ、三世代交流と土佐凧文化の継承のため、旧町村の関係者と連携し、参加者を増やしていくようにSNSやホームページで周知をしていく。また、小中学生に土佐凧づくりや凧あげ体験を実施し次世代の育成を図っていく。
- ◇成人式の開催については、実行委員会形式を続け、実行委員の方たちと企画等の協議を進めて行く。また、楽しいだけでなく学びがあり、思い出に残る成人式を開催できるよう計画していく。
- ◇各公民館において今後も市民の必要としている内容に合った教室や講座の開設に取り組んでいく。ヘアメイク教室、ヨガ教室や親子を対象とした教室など若年層の方が参加しやすい教室を開催する。また、地域のリーダー的な存在の人材づくりにつながる事にも取り組む必要がある。各情報発信では、インスタグラムなどのSNSを活用し市民に興味を抱かれるような広報活動を図っていく。三公民館の情報共有のため館長会の定例化及び、公民館、図書館、文化財センターの担当者等による連絡会等を開催し、意見交換を図っていく。

## ②「まなび」の広報・周知

#### 【取組の概要】

- ◇生涯学習に関する広報・周知は必要不可欠であり、本市では、ホームページやSNS・広報誌等でさまざまな学習やイベント等の周知に努めている。
- ◇本年度も生涯学習に関する各種講座の開催やイベント等の告知、団体の活動紹介等について、ホームページやSNS・香南ケーブルテレビ・広報誌等の多様な媒体により周知ができた。

#### 【成果】

- ◇野市・夜須・香我美の各公民館においては合計145回、図書館では225回のホームページ及びSNSの更新を行い、積極的に各種講座やイベント等の情報提供を行った。そのうち、イベント告知や実施報告、館内外の季節の話題など92件を画像付きで投稿を行い、図書館のInstagramにおいては、3月末現在で423の方がフォロワーとなっている。
- ◇タブレットの活用と新ホームページとなり情報の掲載がしやすくなったことが更新数増加の大きな要因と思われ、利用者の方も見やすくなったとの声があり、継続して更新していきたい。

◇広報「がんばりゆう記」に文化協会に所属するサークル3団体とみかんネット香南の活動を掲載し、活動の紹介を行った。

#### 【課題・方針】

- ◇インスタグラムのフォロワー数について、増加はしているものの広報に役立てるにはまだ数が少ないので、増やしていく取り組みが必要である。多くの講座やイベントを開催しているので、告知する内容は十分にあり、魅力的に見える投稿の仕方を強化するとともに、アカウントの存在の周知にも取り組んでいく。
- ◇今後さらに、香南ケーブルテレビとの連携強化を図り、市民の方に見える・見せる機会の増加を図る。

### ③さまざまな分野に関する「まなび」の提供

#### 【取組の概要】

- ◇趣味等の一般的な学習だけでなく、人権、防災、国際理解、環境、健康福祉等、専門的な分野に関する学習機会の提供が求められている。そのため、本市では、社会の潮流や情勢から市民のニーズが高いと思われるテーマでの講演会や出前講座等を実施するように努めている。
- ◇本年度は、人権・防災・国際理解・健康福祉・子育て・漢詩や詩吟などの文化芸術体験や料理等の趣味教養分野の学習機会の提供に努めた。

#### 【成果】

- ◇よさこい高知文化際 2026 への取り組みとして、高知県漢詩連盟の方を講師に迎え、漢詩教室を5回開催し、延べ27名の参加があった。
- ◇人権に関する講演会の開催や啓発活動は人権課及び人権教育研究協議会と連携し、取り組むことができた。
- ◇中央公民館において、感染症流行前と比較すると中央生活学級や高齢者学級で登録者が減少しているが、防災や健康福祉、趣味教養等に関する学習を開催することができ、防災に関する意識をはじめ健康意識他自己啓発を高めることができた。
- ◇夜須公民館においては、高齢者も参加できるヨガ教室などを開催し健康増進啓発に繋がった。参加者からは今後も開催してほしいとの声をいただいている。また、初心者でも気軽に出演できる一般参加型のロビーコンサートを2回開催し、参加者と来場者との交流の場となった。
- ◇在住外国人との地域交流の場として、「こうなんにほんごサロン」を開設、合計17回のサロンを実施し、外国人学習者184名、日本語ボランティア164名（いずれも延べ）の参加があった。

#### 【課題・方針】

- ◇出前講座の開催については、各公民館で教室内容や講師の情報共有等を行い、教室の在り方を検討する必要がある。また、ホールでの自主事業の際に出演者や講師によるアウトリーチ事業を取り入れていく。
- ◇人権、防災、国際理解、健康福祉、子育て、文化芸術体験や料理等の趣味教養分野の学習会は、引き続き、実施する。新たな分野の学習会や地区公民館等の連携事業については、

- 関係機関の職員等と協力し実施に向けて意見を集約していく。
- ◇公民館活動の活性化を図るため、中央公民館や市民館及び地区公民館等の連携強化に努め、まちづくり協議会等各種団体等への周知を行う。
  - ◇チラシやSNS等を活用し、にほんごサロンの目的と活動の周知を行い、外国人学習者と日本語ボランティアの人員増を図り、地域住民の国際交流を促進する。

#### 【評価】

市内外の講師を招き各種教室を開催した。開催回数は延べ127回で目標とする170回は企画できなかった。また、参加者も2,715名と目標数には至っていない。引き続き、市民ニーズを確かめながら、ライフステージに応じた学びの場を提供し、目標が達成できるように取り組む。

また、ホームページやSNS・広報誌は活用できているので、引き続き取り組んでいく。

## (2) 「まなび」の拠点の充実

### 重点取組事項

- ①「まなび」の拠点整備
- ②「まなび」の拠点の活用促進

### ①「まなび」の拠点整備

#### 【取組の概要】

- ◇住居地の身近な場所で学習機会に恵まれることが望まれている。本市では、各地区に所在する公民館、市民館、図書館等について、市民のニーズに応じた施設の維持・充実に努めており、市民が活用しやすいよう計画的な施設整備を行う必要がある。

#### 【成果】

- ◇中央公民館エレベーター更新工事及びサンホール舞台照明LED化工事が完了し、施設環境の改善と省エネルギー化の促進等が図れた。
- ◇佐古防災コミュニティセンター空調機更新工事が完了し、室内環境の改善と省エネルギー化の促進等が図れた。
- ◇社会教育施設非構造部材耐震化事業について、香我美市民館及び野市図書館の実施設設計が完了、中央公民館の工事に着手し、計画的どおりの事業進捗が図れた。
- ◇野市図書館空調設備更新工事の実施設設計が完了し、計画的どおりの事業進捗が図れた。
- ◇トップページ風の図書館ホームページを充実させてきたことに加え、香南市公式LINEやイベントチラシに申込みQRを付けるなど工夫を凝らしたことで、各種イベントの申し込み等がタイムリーにできた。また、昨年度と同様に図書館の正面玄関脇にテーブルと椅子を継続して設置し、読書や軽食を室外でも楽しんでいただいた。
- ◇市民のニーズや要望に応じて施設の維持・充実に努めており、地区公民館等は合計で

65,649 人の利用があった。

#### 【課題・方針】

- ◇非構造部材耐震化事業などの改修や修繕を計画的に行い、市民が「つどい」、「まなび」、「つながりをつくる」ことのできる公民館等の整備を行う。
- ◇感染症対策で中止、縮小した各行事等の再開について、引き続き、必要な支援について協議等を行い、利用者ニーズに合わせた内容等の実施を行う。

## ②「まなび」の拠点の活用促進

#### 【取組の概要】

- ◇市民が施設を利用するためには、施設でどのようなことが行われているのかを周知する必要がある。そのため、本市では、ホームページや広報誌等により、公民館、市民館、図書館等の利用状況を周知するとともに、SNS・インターネットを活用した利用促進に取り組んでいる。
- ◇本年度は、これまで以上に公民館、市民館、図書館等について市民が利用しやすい周知と環境づくりに努めていく。

#### 【成果】

- ◇野市・夜須・香我美の各公民館においては合計 145 回、図書館では 225 回のホームページおよび SNS の更新を行い、各種講座やイベント等の情報提供を行った。そのうち、イベント告知や実施報告、館内外の季節の話題など 92 件を画像付きで投稿を行い、図書館のインスタグラムにおいては、3 月末現在で 423 人の方がフォロワーとなっている。（再掲）
- ◇各公民館において、QR を活用した教室の申込受付を昨年開始し利用しやすいと好評を得ている。また、各公民館の玄関前やロビー等にも積極的に行事予定や各種募集案内、お知らせなどを見やすく掲示し、大変好評を得ている。
- ◇図書館については、情報発信を促進するため、メールアドレスの登録を呼びかけており、単年度で 113 人の新規登録（累計 685 人）があった。また、インターネットからの図書の予約は 2,254 件であった。
- ◇コロナ禍で低迷していた図書館入館者数は年々徐々に回復傾向にあり、昨年度より 1,300 人増加し、51,822 人であった。また、貸出冊数は、おすすめ文庫コーナーの新設や放課後児童クラブや市内小中学校への図書配送を積極的に実施し、121,487 冊の貸出があり、昨年度実績より 2,557 冊増加した。

#### 【課題・方針】

- ◇インスタグラムのフォロワー数について、増加はしているものの広報に役立てるにはまだ数が少ないので、増やしていく取り組みが必要である。多くの講座やイベントを開催しているので、告知する内容は十分にあり、魅力的に見える投稿の仕方を強化するとともに、アカウントの存在の周知にも取り組んでいく。（再掲）
- ◇図書館において、書誌予約時の利便性と、省力化推進のために、引き続きメールアドレスの登録者数の拡大をめざす。
- ◇障害者や高齢者等、図書館に来館できない人に向けた図書宅配など、図書館サービスの D

- X化も含めた新サービスの構築などを引き続き検討していく。
- ◇電話か来館の受付で、平日昼間しか受け付けられなかったが各公民館の講座や各種教室への申し込みについて、引き続きQRでの申込受付を一層推進し、Webフォームでも申し込める体制を整えていく。
  - ◇ホームページやSNS・香南ケーブルテレビ・広報誌等の多様な媒体により周知に努めていく。

#### 【評価】

まなびの拠点となる公民館、市民館、図書館について、必要な整備は行っており、今後も続けていくこととする。

整備された拠点の利用について、地区公民館等の利用者数は、目標利用者数を超えており、香南市の市民は大変良く地区公民館等を利用しており、まなびには熱心である。

また、図書館の入館者数については、市の高齢者人口の増加や、両図書館の老朽化に伴う随時の改修工事などを必要に応じて実施しているため、工事の期間中に閉館を余儀なくされることから、目標数には到達していない。今後は、継続して利用価値のある書籍の充実に努め、図書宅配などの新サービスの構築を検討し利用者・貸出冊数の増加に努めたい。

### (3) 文化・芸術活動の推進

#### 重点取組事項

- ①文化・芸術活動への支援
- ②郷土の歴史・文化の保存と継承

#### ①文化・芸術活動への支援

##### 【取組の概要】

- ◇文化・芸術鑑賞、あるいは、自ら文化・芸術活動を行うことは、人間性を深め感受性を豊かにすることにつながる。そのため、本市では、文化・芸術活動に触れ、学び、成果を発表できる機会の提供に取り組んでいる。
- ◇令和7年度も、各町単位の文化祭をはじめ、香南市美術展覧会や岡本彌太文学賞の作品募集等を開催し、文化振興に努めた。

##### 【成果】

- ◇文化協会や各種文化サークル等の文化関係団体と連携を図り、各町単位の文化祭は展示部門・舞台部門ともに開催できた。夜須町文化協会の舞台部門では、オンラインライブ配信にも取り組んだ。
- ◇美術展覧会では、写真の部を令和8年1月に開催し、書道、絵画、工芸、グラフィックデザインの部を同2月に開催し、合計227人の方からの出展があった。令和6年度より新設したグラフィックデザインの部においては、今年度も高校生達若い世代からの出展も多くみられた。また、香南市展に興味を抱いてもらうために、ポスターデザインを県内の高校・大学・専門学校等へ依頼し、28人からの応募があった。
- ◇子どもを対象とした文化活動団体への補助金の交付を行った。子どもたちに文芸に親しんでもらうため、岡本彌太文学賞の作品募集を行い、市内全小中学校から、各部門（詩・俳句）合わせて1,488点の応募があり、73点が入選し、若年層の文化・芸術活動の推進が図れた。
- ◇各文化協会や各種事業の実施について、14事業に支援を行い、文化・芸術に接する機会の提供に努めることができた。

##### 【課題・方針】

- ◇大会実行委員会及び市文化協会と連携して、文化活動への支援を充実していく。
- ◇令和8年度の国民文化祭の実施については、市文化協会や各種文化芸能団体と連携を取りながら取り組みを行う。
- ◇美術展覧会においては、出展者の固定化や高齢化が例年課題となっている。令和7年度も近隣の高校や専門学校にポスターデザイン募集依頼や出展に向けた周知のお願いをした結果、多くのポスターデザインの応募があり、グラフィックデザイン部門においても若い世代の応募が多く見られた。また、今後も継続して応募したい等の要望もいただいた。

## ②郷土の歴史・文化の保存と継承

### 【取組の概要】

- ◇ふるさとの歴史・文化を学ぶことは、ふるさとへの愛着を深め知性や教養を豊かにすることにつながる。そのため、本市では、文化財の適切な調査・保護・保全に努め、文化財を学び・知る・楽しむ機会を促進していく。
- ◇今年度は、関係機関と連携して、試掘調査7件、過年度発掘調査の整理作業を実施し、埋蔵文化財の記録と保護に努めた。また出前講座や文化財教室などの文化財啓発事業を実施した。

### 【成果】

- ◇香南市文化財センターでは、市内の文化財や天然記念物、戦争資料等を常設で展示しており、文化財の保護・活用についての広報普及を行っている。令和7年度は常設展に加えて「戦後80年企画展 戦争を語るモノ」「ミクロの考古学」などの企画展を実施した。その他に「戦後80年 巡回パネル展 香南市の戦争遺産」を実施し、市内の各公民館及び図書館で1月ごとの巡回展を実施した。
- ◇令和2年から5年まで発掘調査を実施した北地遺跡の報告書を刊行、令和6年度に調査した北岸山端遺跡、西野遺跡の実測作業や写真撮影などの整理作業を進めることができた。
- ◇文化財関係の看板(6基)、文化財教室(3回)、文化財めぐり(1回)、文化財出前講座(1回)、安岡家一般公開(7回)等様々な文化財周知や企画をし、市民が文化財に触れる機会を提供できた。
- ◇令和2年から行っている山城の範囲を確定する調査は、令和7年度に行った10か所で調査は終了し、香南市の山城の範囲を確定することができた。
- ◇自主事業として、指定古文書の読み下し作業を行い、後世に残す取り組みができた。
- ◇重要文化財「安岡家住宅」の一般公開は、主催者・ボランティアガイドが協力して定期的開催し、公開活用に努めた。
- ◇香南市文化財を広く伝えていくため、文化財ボランティアガイドの養成に取り組み、令和6年度より1名増え12人の方が登録している。

### 【課題・方針】

- ◇文化財・埋蔵文化財について、存在は知っていても詳しく知らない方もいるため、多くの方に興味を持ってもらえるような啓発活動を検討していく。
- ◇文化財ボランティアの育成について、安岡家住宅一般公開にはほとんど全員が参加していることから、引き続きこの体制を保ちつつ、新規のガイド獲得に向けて募集活動をしていく。
- ◇本市の文化財を後世に残していくためには、後継者の育成だけでなく人材の確保も必要になるため、育成事業を進めながら、人材を確保する方法を検討していく。

### 【評価】

香南市美術展覧会においては、愛好者の作品発表や鑑賞の機会の提供が図れ、予定通り事業は実施できた。また、各町の文化祭においても日頃の活動の成果を披露する機会を提供できた。

指定古文書の読み下しや山城の範囲、新たな文化財看板設置等後世に文化を伝える取り組みができた。

啓発活動は、令和6年度より多くイベント等を開催することができた。また、定員を超えるイベントもあった。今後は、さらに多くの方が参加してもらえるように検討していく。

## (4) スポーツの振興

### 重点取組事項

- ①あらゆるスポーツ活動への支援
- ②スポーツに親しむ環境・体制の充実
- ③スポーツを通じた活力あるまちづくり

### ①あらゆるスポーツ活動への支援

#### 【取組の概要】

- ◇スポーツには、競技スポーツ、生涯スポーツ、障害者スポーツなどがあり、年齢や身体の状態等に応じて、誰もが親しみ競い合うことができる種目がある。そのため、本市では、NPO 法人こうなんスポーツクラブや各種スポーツ団体と連携し、スポーツの普及と機会の提供に努めている。
- ◇本年度も、NPO 法人こうなんスポーツクラブと連携し、市民の健康維持、促進につながるような各種教室の開催に努めた。また、スポーツ少年団やスポーツ協会等の活動を支援し、競技力向上を図った。

#### 【成果】

- ◇各種スポーツ教室の開催はこうなんスポーツクラブへ委託して開催しており、令和7年度は18教室、延べ855回を開催した。どの教室も盛況で競技力の向上だけでなく、良い交流の場になっている。
- ◇スポーツ少年団やスポーツ協会、スポーツ関連団体等に対して、施設利用料の減免を行い、スポーツ関連団体の活動を支援しスポーツ推進体制の充実を図った。(スポーツ少年団登録者410人、スポーツ協会登録者509人)
- ◇障害者スポーツへの参加機会を拡充した取り組みや市民の健康状態やニーズに応じた効果的なプログラム等を提供した取り組みはできなかった。
- ◇インターネットを活用してのスポーツに関するイベント等の告知や団体の活動紹介等やリモートでのスポーツ教室の展開の取り組みはできなかった。

#### 【課題・方針】

- ◇今後も、市が力を入れるスポーツの提案や生涯活動に効果的なスポーツの研究に努め、こうなんスポーツクラブと連携してニーズを把握し、事業を企画・実施していく。また、スポーツ人口の拡大を図るため、軽スポーツの普及にも取り組んでいく。
- ◇施設の維持管理のために、施設利用料の減免について、減免の区分や率などの見直しが必要となっており、関係者の意見等を聞きながら検討していく必要がある。
- ◇一層の健康増進を図るため、既存競技だけでなく小学生から高齢者まで楽しめるニュースポーツの事業を企画立案し、継続して行えるようスポーツクラブと連携していく必要がある。

## ②スポーツに親しむ環境・体制の充実

### 【取組の概要】

- ◇市民すべてが等しくスポーツの機会に恵まれ、自らの欲求や状態に応じたスポーツに取り組める環境が求められている。そのため、本市では、スポーツ関連施設の維持・管理に努めるとともに、指導者の資格取得の支援に取り組んでいく。
- ◇全国大会等への選手派遣の支援や香南市スポーツ協会による香南市スポーツ表彰を行った。

### 【成果】

- ◇野市総合体育館及び香我美トレーニングセンターの非構造部材耐震化工事が完了し、安全・安心なスポーツ施設の確保が図れた。
- ◇香我美トレーニングセンターアリーナ床塗装工事が完了し、施設環境の改善が図れた。
- ◇安全・安心なスポーツ競技の拠点を確保するため、香我美トレーニングセンター消火ポンプ取替修繕業務や野市総合体育館バスケットゴール修繕を行った。
- ◇子どもの適性に応じた育成・強化の体制を充実については、十分な取り組みには至らなかった。
- ◇全国大会等への選手派遣を支援する派遣補助金は団体 9 件、個人 12 件の交付を行った。また、個人 31 人、団体 7 団体に対し、顕著な成績を残した選手・団体を表彰する香南市スポーツ表彰の贈呈を行い、広報誌への掲載を行った。

### 【課題・方針】

- ◇スポーツ施設の整備については、必要最低限にとどめ、施設の規模適正化に取り組んでいく。ただし、緊急かつ必要性が高いものについては、随時対応していく。
- ◇子どもの適正に応じた育成・強化については、市の方向性を決め、こうなんスポーツクラブやスポーツ関係団体にも協力してもらい取り組んでいく。
- ◇引き続き、スポーツ指導者等の資質向上を図るため、研修等の参加を促していく。
- ◇指導者の高齢化が進んでおり、後継者不足が問題となっているため、令和 4 年度に新設した、香南市スポーツ振興人材育成事業を活用し、指導者の育成に取り組んでいく。
- ◇派遣補助金、スポーツ表彰とも今後のスポーツ推進のために継続していく。

## ③スポーツを通じた活力あるまちづくり

### 【取組の概要】

- ◇スポーツを通じた活力あるまちづくりを推進するため、本市では、市民同士のコミュニケーションの促進や交流人口の拡大に寄与するさまざまなスポーツイベントの開催を支援している。
- ◇スポーツ関連団体と連携して、各種市長杯や駅伝大会などの大会を実施した。

### 【成果】

- ◇天候の影響により一部中止となった大会はあったが、スポーツ関連団体と連携して、各種市長杯大会（10 大会）、駅伝大会（3 大会）を実施した。
- ◇スポーツ関連団体と連携して、広域から参加者が集まるスポーツイベント（ツーデーウオ

ーク、龍馬カップ、塩の道ウォーク、ユニバーサルビーチ事業)を実施し、交流人口の拡大に取り組んだ。

◇観光関連団体と連携して、ツデーウォーク、KONAN TRAIL～お塩と羽尾とやすらぎトレイル～等を実施し、スポーツツーリズムの推進に取り組んだ。

◇産学官民の連携を促進させ、スポーツ合宿を誘致した取り組みは実施に至らなかった。

#### 【課題・方針】

◇スポーツ推進委員を含むスポーツ指導者人材の高齢化が進行しており、今後は若い世代の人材確保が急務である。

◇中学校部活動の地域移行に係る協議も今後必要となっており、スポーツ推進委員を含むスポーツ指導者との意見交換を随時行い、方向性等の検討に取り組む。

#### 【評価】

今年度については、天候の影響により駅伝など一部大会等の中止はあったものの、多くの大会やイベントが開催できた。

また、香南市は各種大会やイベントも多く、スポーツ人材は豊富であり、本年度のスポーツ表彰でも多くの市民や団体が表彰されている。引き続き、スポーツに関するイベント等への支援を行うとともにスポーツ人材を確保・育成し、新たなボランティア団体の育成やスポーツを通じた活力あるまちづくりをめざしていく。



## (5) 地域への「まなび」の還元

### 重点取組事項

#### ①「まなび」を還元する取組の推進

#### ①「まなび」を還元する取組の推進

##### 【取組の概要】

- ◇学習等により得た知識や技能を地域や社会に還元することが、人や地域の絆を強くし、地域活性化や持続可能な地域社会の構築につながる。そのため、本市では、市民が知識や技能を生かせる場の提供やボランティアの養成に取り組んでいる。
- ◇本年度は、活動実績のある2つのボランティア団体において、それぞれ地域や社会、イベント等でその知識や技能を還元していただいた。

##### 【成果】

- ◇生涯学習に関する知識や技能を活用したボランティアについては、令和7年度は読み聞かせ等を開催していただく読書ボランティアと文化財の説明等をしていただく文化財ボランティアの2グループとなっている。合計54人の登録者があり、それぞれ地域や社会、イベント等でその知識や技能を還元していただいた。

また、読み聞かせや、ボランティア活動、子どもとの接し方に興味のある方に対し、昨年度に引き続き読書ボランティア養成講座を行ったところ、4回の講座で延べ57人の参加がありボランティア育成に努めることができた。

＊読書ボランティア（42人）

＊文化財ボランティア（12人）

- ◇スポーツを支える人材を確保するため、資格の取得にかかる費用の補助を行う、香南市スポーツ振興人材事業費補助金を策定しているが、今年度は申請がなかった。

##### 【課題・方針】

- ◇本市の文化財を後世に残していくためには、後継者の育成だけでなく人材の確保も必要になるため、育成事業を進めながら、人材を確保する方法を検討していく。
- ◇引き続き読書ボランティアを養成するための養成講座を開催することにより、絵本の読み聞かせや、ボランティア活動、子どもとの接し方などを学ぶことを通して、将来的な読書ボランティアの登録者数の増加へと繋げていきたい。加えて、読書ボランティア登録者の高齢化が顕著であることから、将来的に、図書館の活動に関心があり、職員と一緒に図書館を盛り上げていただける方々を登録する「サポーター制度」の整備・創設を検討していきたい。
- ◇今後も市のスポーツ振興を担ってくれる市民に対して、継続して資格取得に係る費用の支援を行っていく。

**【評価】**

ボランティアに登録いただいた方々については、その知識や技能を還元していただき、地域活性化につながっており、事業を実施するにあたって、必要不可欠な存在となっている。

課題で示したように、新たなボランティア組織の育成と持続可能な組織となるよう人材育成と人材確保に努めていかなければならない。

## 4. 成果指標の点検・評価結果一覧表

基本目標／施策名／成果指標		担当課	R7評価	R6評価
1. 就学前・学校教育の推進				
(1) 保幼小中連携の推進				
①保幼小中連携（一貫）教育の推進				
1	各中学校区の課題解決に向けて、保幼小中連携（一貫）年間計画に基づき、検証改善システムを機能させながら組織的に取り組んでいる	学校教育課	A	A
2	育てたい力やねらいを明確にした互惠性のある交流活動に取り組んでいる	学校教育課	A	A
(2) 家庭・地域と連携した教育の推進				
①地域コミュニティとの連携				
3	地域から見た学校と地域との関係性を問う学校評価が「A」の割合	学校教育課	C	B
4	こうなんファミリーサポートセンター会員数	こども課	A	A
②家庭の教育力の向上				
5	子育て親育ち講演会への参加者数	こども課	B	B
6	子育て支援センター利用者数	こども課	A	A
③放課後の子どもの健全育成				
7	放課後児童クラブの利用者数（4月時点）	こども課	A	A
8	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の指導員等研修会実施回数	こども課	A	A
④厳しい家庭環境にある子どもへの支援				
9	チャレンジ塾の開設数	学校教育課	A	A
⑤不登校への適切な対応と未然防止				
10	1,000人あたりの新規不登校児童生徒数	学校教育課	A	A
(3) 生きる力と確かな学力の育成				
②確かな学力の育成				
11	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと回答した児童生徒の割合	学校教育課	B	B
12	知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れていると回答した学校の割合	学校教育課	B	B
③ICT機器を活用した教育の推進				
13	授業において、毎日1回以上ICT機器を活用している児童生徒の割合	学校教育課	B	B
14	授業以外で、毎日1回以上ICT機器を活用している児童生徒の割合	学校教育課	B	C
④豊かな心の育成				
15	自分にはよいところがあると思うか	学校教育課	A	A
16	人が困っているときは、進んで助けている	学校教育課	A	A
⑤キャリア教育の推進				
17	将来の夢や目標を持っている	学校教育課	B	B

基本目標／施策名／成果指標		担当課	R7評価	R6評価
⑥人権教育の推進				
18	個別の人権課題に関する校内研修及び授業研究を、年間計画に位置付け、実施している学校の割合	学校教育課	A	A
19	いじめ認知件数（1,000人当たりの認知件数）	学校教育課	B	A
⑦健やかな体の育成				
20	肥満傾向率（小学校5年生）	学校教育課	B	B
21	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（小学校6年生・中学校3年生）	学校教育課	B	B
22	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）	こども課	B	B
⑧特別支援教育・保育の推進				
23	個別の指導計画書を作成した小中学校の割合	学校教育課	A	A
24	「個別の指導計画」が必要な児童生徒のうち、「個別の教育支援計画」等のツールを活用して引継ぎが行われた児童生徒の割合	学校教育課	A	A
25	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施の割合	こども課 学校教育課	A	A
（4）教育活動を支える体制の充実				
①教職員の資質向上とマネジメント力の強化				
26	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる	学校教育課	A	B
27	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	学校教育課	A	A
28	授業の内容がよくわかる【国語】	学校教育課	A	A
29	授業の内容がよくわかる。【算数・数学】	学校教育課	B	B
30	市職員研修及び園内研修の実施回数	こども課	A	A
②相談支援体制の充実				
31	市の子育て情報サイトへのアクセス回数	こども課	B	A
③生徒指導の充実				
32	学校に行くのは楽しい	学校教育課	B	B
④教職員の働き方改革の推進				
33	年間の時間外業務の時間数が360時間以内の教職員の割合	学校教育課	B	B
（5）保幼小中の教育環境の充実				
①学校・保育施設の環境整備				
34	通園・通学路の点検を定期的実施できたか	こども課 学校教育課	A	A
②防災教育等の推進				
35	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育を実施した	学校教育課	A	A
36	危機管理マニュアル（学校防災マニュアルを含む）の見直しの機会を設けた	学校教育課	A	A
37	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか	こども課 学校教育課	A	A

基本目標／施策名／成果指標		担当課	R7評価	R6評価
2. 生涯学習の推進				
(1) 生涯にわたる「まなび」の展開				
①ライフステージに応じた「まなび」の充実				
38	各種教室の延べ開催回数	生涯学習課	B	B
39	各種教室の延べ参加者数	生涯学習課	C	B
②「まなび」の広報・周知				
40	ホームページ及びSNSの更新回数	生涯学習課	A	A
③さまざまな分野に関する「まなび」の提供				
41	公民館等の出前講座開催回数	生涯学習課	A	C
(2) 「まなび」の拠点の充実				
①「まなび」の拠点整備				
42	地区公民館等の利用者数	生涯学習課	A	A
②「まなび」の拠点の活用促進				
43	ホームページ及びSNSの更新回数【再掲】	生涯学習課	A	A
44	図書館の入館者数	生涯学習課	B	B
45	図書館の貸出冊数	生涯学習課	B	B
(3) 文化・芸術活動の推進				
①文化・芸術活動への支援				
46	文化協会支援事業数（文化祭・芸能大会等）	生涯学習課	A	A
47	市美術展覧会の出展者数	生涯学習課	B	B
②郷土の歴史・文化の保存と継承				
48	文化財ボランティアガイド登録者数	生涯学習課	B	B
49	文化財啓発事業（小・中学校への出前講座含む）の実施回数	生涯学習課	A	A
(4) スポーツの振興				
①あらゆるスポーツ活動への支援				
50	スポーツ教室延べ開催数	生涯学習課	A	A
51	スポーツ少年団及びスポーツ協会登録者数	生涯学習課	B	B
②スポーツに親しむ環境・体制の充実				
52	全国大会等派遣支援件数	生涯学習課	A	A
53	スポーツ表彰受賞者数	生涯学習課	A	A
③スポーツを通じた活力あるまちづくり				
54	地域コミュニティの活性化に資するスポーツ関連イベントの開催数	生涯学習課	A	A
55	交流人口の拡大に資するスポーツ関連イベントの開催数	生涯学習課	B	B

基本目標／施策名／成果指標		担当課	R7評価	R6評価
(5) 地域への「まなび」の還元				
①「まなび」を還元する取組の推進				
56	スポーツ等指導者資格等取得支援者数及び資質向上に資する研修受講者数	生涯学習課	B	B
57	生涯学習に関するボランティア等登録者数	生涯学習課	B	B

評価	判断基準
A	目標・計画どおりに取組を実施し、充分成果がでている。 (達成率：100%以上)
B	目標・計画どおりに取組を実施し、ある程度成果がでている。 (達成率：概ね60%以上～100%未満)
C	目標・計画どおりに取組を実施したが、あまり成果がでていない。 (達成率：概ね60%未満)
D	目標・計画どおりに取組を実施できなかった。 (達成率：0%)

## 5. 成果指標の点検・評価結果

基本目標		1. 就学前・学校教育の推進				
		(1) 保幼小中連携の推進				
施策名		①保幼小中連携（一貫）教育の推進				
整理No.	1	担当課	学校教育課	評価	A	
成果指標	各中学校区の課題解決に向けて、保幼小中連携（一貫）年間計画に基づき、検証改善システムを機能させながら組織的に取り組んでいる。 ※市独自調査 「よくできた」「できた」と回答した割合					令和8年度末の目標数値 100%
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
-	100%	100%	100%	100%	90%	111%
取組概要	中学校区連携推進研究事業の年間計画及び「香南市保幼小中連携カリキュラム」に基づき、保育所・幼稚園・認定こども園から小学校、そして中学校までの15年間を一つの連続した成長の過程と捉え、組織的に系統的な教育を推進している。特別支援教育の視点、人権教育の視点、防災の視点など各中学校区の中心的課題を踏まえた研修を充実させている。					
課題 (今後の方向性)	具体的取組として、「体験学習・乗り入れ授業」「教職員の交流」「子ども同士の交流」「家庭・地域・行政との連携」の4つの柱を展開しているが、直接顔を合わせて対話したり協議したりする機会が少なくなっている。子どもたちの発達を支える風土を地域全体で醸成し、保護者や地域住民の理解と協力を得ながら総合的かつ効果的な教育推進に向け、研修内容の見直し改善を行う。					
整理No.	2	担当課	学校教育課	評価	A	
成果指標	育てたい力やねらいを明確にした互惠性のある交流活動に取り組んでいる ※市独自調査 「よくできた」「できた」と回答した割合					令和8年度末の目標数値 100%
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
-	100%	100%	100%	100%	90%	111%
取組概要	保幼小連携・接続担当者会を5月（市指定）、7・8月（小学校区で設定）、2月（市指定）に行い、保幼小の接続についての共通理解、交流を含めた取組の質的向上を目指して取組を進めてきた。架け橋期のカリキュラムを保育所の年長担当と小学校1年担任がともに検討することを通して、子どもを真ん中に据え、具体的な姿を通じた協議が行われた。なお、架け橋期カリキュラムは全ての小学校区で作成を完了した。					
課題 (今後の方向性)	次年度は、本年度作成した架け橋期カリキュラムを実施するとともに、検証し、改善を図ることが必要である。来年度は保幼小連携・接続担当者会が開催されないため、各小学校区において自立して取組を進めていくことが必要となる。クラウドを活用し、進捗状況を把握しつつ、クラウドにて他の小学校区の実践を共有することができるようにして、引き続き互惠性のある交流活動となるよう質的な向上に向けた事前協議や事後協議の充実を図っていく。					

基本目標	1. 就学前・学校教育の推進
	(2) 家庭・地域と連携した教育の推進

施策名		①地域コミュニティとの連携					
整理No	3	担当課	学校教育課			評価	C
成果指標	地域から見た学校と地域との関係性を問う学校評価が「A」の割合					令和8年度末の目標数値	70.0%以上
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
36.0%	27.3%	22.0%	50%	12.5%	70%	17.9%	
取組概要	<p>地域に根ざした特色ある学校づくりに努めるとともに、その都度ホームページやすぐーる等での情報発信を行った。</p> <p>学校運営協議会と地域学校協働本部が一体となって取組を進められるよう連携・協働している。学校や地域学校協働本部事業運営委員会への財政的・事務的な支援に限らず、地域学校協働本部事業運営委員会へ出席し、地域や学校からの声を直接聴くことで学校が目指す姿を捉えたり、活動がより活性化するよう働きかけたりする等、支援の充実を図った。</p>						
課題 (今後の方向性)	<p>各校の学校評価から、学校の近況や児童の生活、活動の様子を保護者や地域等への発信が十分でない実態が見られた。学校ホームページ等を通じて地域社会にも情報発信を行い、地域とのつながりを深めていく必要がある。また、コミュニティスクールを活用し、学校の課題解決に向けた取組方針を共有したり、見直したりし、地域に開かれた特色のある学校づくりを進める。保護者や地域の協力を得ながらの学校運営が求められる。</p>						
整理No	4	担当課	こども課			評価	A
成果指標	こうなんファミリーサポートセンター会員数					令和8年度末の目標数値	130人
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
102人	128人	150人	149人	155人	120人	129.2%	
取組概要	<p>委託先（香南市社会福祉協議会）と連携を取りながらファミリーサポートセンター事業の周知や、会員数を増加させ事業の充実を図るため、まかせて会員講習会の開催、会員同士の交流会の開催、ファミサポ通信の作成を行った。</p> <p>令和7年度は、市内2箇所のまちづくり協議会にて事業周知を行い、まかせて会員の獲得を図った。</p> <p>また、子育て支援拠点である香南市総合子育て支援センター「にこなん」において、身の回りにおける危険について親子が身体を動かしながら学ぶ、リトミック教室を開催した。子育て世帯が9組参加、男親が2名参加し、事業周知と親子の交流の場を設けることができた。</p>						
課題 (今後の方向性)	<p>共働き家庭などからのニーズが高まる一方、ボランティアのなり手が不足しており、まかせて会員数は伸び悩んでいる。また、マッチングに苦慮するケースや会員登録はしているものの活動にいたらないまかせて会員もいる。今後も社会福祉協議会とともに、市民が多く集まる講習会等で事業の周知を行い、まかせて会員の確保に努める。</p>						

施策名		②家庭の教育力の向上				
整理No	5	担当課	こども課	評価	B	
成果指標	子育て親育ち講演会への参加者数					令和8年度末の目標数値
						500人
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
284人	350人	351人	441人	344人	500人	68.8%
取組概要	香南市立の所・園ごとに企画した講演会と香南市全体の就学前の子どもを持つ保護者に向けた講演会を18回実施した。					
課題(今後の方向性)	学習会の報告書では、満足感の高い感想が見受けられる一方で、参加者数は伸び悩んでいる状況である。保護者の参加数を増やせるよう、開催時期や時間等の見直し、就学前の子育て世代にとって関心・ニーズの高い内容の構成について引き続き工夫が必要である。また、各所・園で講演会が実施できるよう支援を行う。					
整理No	6	担当課	こども課	評価	A	
成果指標	子育て支援センター利用者数					令和8年度末の目標数値
						10,800人
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
10,197人	10,770人	11,437人	13,511人	15,186人	10,800人	140.6%
取組概要	<p>総合子育て支援センター事業(育児学級、子育て講演会、父親支援事業、子育て講座など)や健康対策課事業(授乳・栄養相談、パパママ教室、妊婦教室など)を実施し、妊娠期からの切れ目のない支援に取り組んだ。また、就学前の児童とその保護者の相互の交流や子育てについての相談、情報の提供など、支援を求める人が気軽に訪れることができる場の提供を行った。</p> <p>親子のひろばは、平日は午前9時～午後4時まで、土曜日(R7年度より第2・第4土曜日を毎週土曜日へ拡大)は午前9時～午前11時30分まで開設し、毎週第3金曜日の午後及び保育所における家庭保育協力日に合わせて「にこなんであそぼう!」と題して、利用対象者を未就園児に限定せず、市内市外問わず就園児の利用拡大を行った。</p> <p>病後児保育施設については午前7時30分から午後4時30分まで開設した。また、出張ひろばについては、野市東こども園(月曜日、R7年度より実施)、香我美おれんじ保育所(火曜日)、夜須こども園(木曜日)いずれの園においても午前9時から12時まで開設した。</p>					
課題(今後の方向性)	<p>就学前の保護者の子育てに対する不安感や悩みを軽減し、子育てに活かしていただけるよう、妊娠から出産、育児まで、関係機関と連携しながら切れ目のない子育て中の保護者の目線に立った、寄り添い型の子育て支援を行う。そして「にこなん」を拠点とした相談体制の拡充や病後児保育などサービスを充実させることにより利用者の増加を目指す。</p> <p>相談支援としては、利用者からの子育ての相談に応じ、実情の把握に努め、相談内容や利用者等の状況などに応じて情報提供や助言、支援につなげる。また、内容に応じて保健師や保育所と情報を共有し一緒に支援していく。こども家庭センターに、迅速かつ適切に情報共有、連携し、必要な支援につなげられるようにする。</p>					

施策名		③放課後の子どもの健全育成				
整理No	7	担当課	こども課		評価	A
成果指標	放課後児童クラブの利用者数（4月時点）					令和8年度末の目標数値 450人
令和2年度（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
336人	466人	457人	456人	458人	450人	101.8%
取組概要	<p>放課後児童クラブを市内12カ所で開設し、共働き家庭等の児童（1～6年生）を対象として放課後から18時（一部18時30分）まで遊びや生活の場を提供し、子どもたちの健全育成の向上を図る。</p> <p>※R7.4月現在の入会児童数の内訳は、野市小179人、佐古小78人、野市東小75人、赤岡小17人、香我美小76人、夜須小33人</p>					
課題（今後の方向性）	<p>児童クラブ支援員には、多様化する保育ニーズに対応できる資質が求められるため、県主催研修等への積極的な参加を促し、支援員の資質向上を図っていく。</p> <p>令和8年度より夜須は一と児童クラブの運営主体が、保護者会から市へ変更となる。</p> <p>市の行政改革の取り組みにおける事務事業の見直しの中で重要な行政課題の一つとして「放課後児童クラブの運営について」があげられていることから、歳入を増やす取り組み（保護者負担金の見直し）、歳出を削減する取り組み（支援員の配置基準の見直し）を行い、持続可能なクラブ運営への転換を図っていく必要がある。</p>					
整理No	8	担当課	こども課		評価	A
成果指標	放課後児童クラブ、放課後子ども教室の指導員等研修会実施回数					令和8年度末の目標数値 6回
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
7回	13回	16回	14回	11回	6回	183.3%
取組概要	<p>児童クラブ支援員を対象に、視覚支援の基本的な理解のための講座の実施や、県の主催する体験活動出前研修会に参加を促し、発達障害児等の支援が必要な児童の目線に立った対応について知識を深めた。</p> <p>その他、市や県等が主催する研修に参加し、資質向上を図った。</p>					
課題（今後の方向性）	<p>延べ287人が様々な研修会へ参加した。多様化する保育ニーズに応えられる支援員を育成するために、引き続き研修への参加を促し、資質の向上を図っていく必要がある。</p>					

施策名		④厳しい家庭環境にある子どもへの支援				
整理No	9	担当課	学校教育課		評価	A
成果指標	チャレンジ塾の開設数					令和8年度末の目標数値 4教室
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
2教室	3教室	4教室	4教室	4教室	4教室	100.0%
取組概要	<p>香南市内の全ての中学校3年生を対象に、10月から翌年2月末まで、毎週火曜日と木曜日に学習支援を行った。赤岡市民館、香我美市民館、のいちふれあいセンター、夜須公民館の4会場で英語と数学について学習を進め、高校進学を目指した学習に取り組んだ。</p> <p>赤岡教室 : 8名 香我美教室 : 24名 野市教室 : 30名 夜須教室 : 9名 合計71名</p>					
課題 (今後の方向性)	<p>目標数値の4教室での開催となり学習環境の構築と学習支援を提供することができ生徒同士で教え合うなどの風景も見られた。一方で、年々生徒数が多くなっていることに伴い、支援員が現場で直面している課題等も多くなってきており、定期的に支援員と市担当者がコミュニケーションを取ることで対応してきた。今後も支援員とコミュニケーションを図りつつ適切な対応に努めたい。(本年度は39回実施予定)</p>					

施策名		⑤不登校への適切な対応と未然防止				
整理No	10	担当課	学校教育課		評価	A
成果指標	1,000人あたりの新規不登校児童生徒数					令和8年度末の目標数値 高知県平均以下
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
—	小学校 7.2人 中学校22.0人	小学校 7.3人 中学校13.4人	小学校 3.7人 中学校10.8人	小学校 5.0人 中学校15.6人	高知県平均以下 (未公表)	小学校 - % 中学校 - %
取組概要	<p>不登校の未然防止の取組として、香南市内保幼小中学校が連携して「魅力ある園・学校づくり」に取り組んでいる。重点取組として、「居場所づくり」と「絆づくり」、「のりしろ期」の取組を推進している。具体的には、所属長会・担当者会・学校訪問・通信を通じて、3つの取組について啓発を図るとともに、魅力意識調査(魅力ある学校生活アンケート)を年3回実施し、こどもの声が届く取組、こどもの声を生かした取組ができていないかPDCAサイクルを回して検証しながら改善を図っている。また、気づきの段階からの組織的な支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携を図り早期発見・早期対応を行っている。</p>					
課題 (今後の方向性)	<p>新規不登校児童生徒数は公表されないため、不登校発生率で比較すると、令和6年度は小学校0.8人(全国2.30人)、中学校3.81人(全国6.79人)であった。小・中学校ともに不登校発生率は令和4年度より全国平均以下となっている。しかし、令和7年度は小学校5.0人、中学校15.6人となり令和6年度より微増している。今後は、令和7年度の検証・改善を行うとともに、引き続き香南市の強みである保幼小中連携の取組を生かした「魅力ある園・学校づくり」、引継ぎ等情報共有と活用の充実、相談支援体制の充実、関係機関との連携等、SOSを出しやすい体制・関係づくりの構築につとめる。なお、令和6年度から数値が上がっているにもかかわらず「A」としている理由は、全国的に不登校数が増加するなかで本市の不登校発生率は令和4年度以降、国・県の不登校発生率より抑制されており、令和7年度も目標数値である高知県平均以下になる見通しであるため。</p>					

基本目標	1. 就学前・学校教育の推進				
	(3) 生きる力と確かな学力の育成				

施策名		②確かな学力の育成					
整理No	11	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思うと回答した児童生徒の割合					令和8年度末の目標数値	小学校50%以上 中学校50%以上
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
-	小学校37.2% 中学校43.2%	小学校37.6% 中学校47.5%	小学校40.1% 中学校36.2%	小学校 43.7% 中学校 39.4%	小学校 45%以上 中学校 45%以上	小学校 97.1% 中学校 87.5%	
取組概要	小・中学校では、県指定事業の「令和の授業DX事業」や市指定事業「香南市小中学校教育DX推進事業」の他、県や市が主催する研修会や担当者会、自校での校内研修等の機会を活用しながら、1人1台端末を活用しながら主体的・対話的で深い学びに向けた授業づくりについて、校内研修を重ね、年間を通じて組織的に学習指導改善を図ってきた。						
課題 (今後の方向性)	1人1台端末を効果的に活用し「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた授業改善が求められているが、具体的な授業イメージが共有化できていないのが現状である。今年度に引き続き来年度においても拠点校の授業公開や、香美市で開催される全日本教育工学研究協議会の全国大会を研修に位置付けるなど多くの先生方が授業イメージを持つことができるようにする。 また、国や県が実施する研修会や校内研修も十分に活用し、質の向上を図っていく。						
整理No	12	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見だして解決策を考えたり、思いや考えを基に想像したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れていると回答した学校の割合					令和8年度末の目標数値	小学校85%以上 中学校75%以上
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
-	小学校100% 中学校100%	小学校71.4% 中学校50.0%	小学校－% 中学校－%	小学校 －% 中学校 －%	小学校 70%以上 中学校 75%以上	小学校 －% 中学校 －%	
取組概要	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められるなか、各学校では児童生徒の資質・能力の育成を目指し、組織的な取組を展開している。具体的には、校内研修の充実に加え、校外研修への積極的な参加を促進し、教員の指導力向上を図っている。また、年間を通じて「香南市版学力分析シート」を活用し、客観的なデータに基づいた日々の授業改善を継続的に実践している。令和6年度の全国学力・学習状況調査における項目削除に伴い、以降の数値記載は行っていない。しかし、同調査における「深い学び」への指導の工夫に関する複数の項目結果を概観すると、ほとんどの学校において指導方法の工夫および改善が行われているため「B」とする。						
課題 (今後の方向性)	児童生徒の「課題発見・解決能力」や「自己調整しながら学習に向かう資質・能力」の育成、および各教科等における「探究的な学習」の実践が、いまだ十分とは言えない状況にある。今後は「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が急務であり、これまでの授業スタイルからの大きな転換が求められる。そのため、特に香南市教育DX推進事業や県事業「令和の授業DX」において、これらの視点を重点的に盛り込み、授業改善を強力に支援していく。						

施策名		③ICT機器を活用した教育の推進					
整理No	13	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	授業において、毎日1回以上ICT機器を活用している児童生徒の割合					令和8年度末の目標数値	小学校100% 中学校100%
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
-	小学校45.9% 中学校30.0%	小学校81.0% 中学校80.9%	小学校65.0% 中学校96.0%	小学校66.5% 中学校97.0%	小学校100% 中学校100%	小学校66.5% 中学校97.0%	
取組概要	香南市小中学校教育DX推進事業の実実施計画に基づき、全小中学校において学習指導要領の趣旨を実現するため、デジタル学習基盤を効果的に活用した授業への転換を推進している。具体的には、学習者主体の授業づくりを目指し、ICTを活用した教科指導の在り方について実践的な取り組みを重ねている。						
課題 (今後の方向性)	小学校では低学年での導入期、中学年での慣れ、そして高学年（特に6年生）での「文房具化」というステップが顕著にみられた。6年生では「文章作成」「情報検索」において95%以上、「情報整理（思考ツール等）」においても約90%の児童が「できる」と回答しており、中学校での活用を支える土台となっている。課題は低・中学年の活用格差である。今後は6年生の活用事例を下級生に見せることで活用イメージを醸成したり、6年生で伸びる「思考・分析スキル」を4・5年生の段階から段階的に導入し、スキルの早期定着を図る。中学校は全学年90%以上が1日2回以上の授業で使用しており、「使いこなして当たり前」のフェーズに達している。今後は活用頻度が高い分、より高度な情報モラル教育を充実させる。						
整理No	14	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	授業以外で、毎日1回以上ICT機器を活用している児童生徒の割合					令和8年度末の目標数値	小学校100% 中学校100%
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
-	小学校54.0% 中学校60.8%	小学校68.3% 中学校68.2%	小学校53.8% 中学校59.3%	小学校62.3% 中学校69.0%	小学校100% 中学校100%	小学校62.3% 中学校69.0%	
取組概要	香南市小中学校教育DX推進事業に基づき、デジタル学習基盤を活用した授業への転換を推進している。特に、学校での学習と家庭学習をシームレスにつなぐ「ドリルパーク」等の活用や、校内生活におけるICTの日常的な利用の定着を図っている。						
課題 (今後の方向性)	小学校では6年生でも授業外利用は32.8%にとどまっており、授業外活用の目的の不明確さがある。小中連携を通して活用方法の共有や活用頻度の引き上げと定着を図る。中学校では授業外（家庭や休み時間等）での利用も活発で、自発的に端末を選択して学習するスタイルが確立しているので、活用の質をさらに高めていく。						

施策名		④豊かな心の育成				
整理No	15	担当課	学校教育課	評価	A	
成果指標	自分にはよいところがあると思うか ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合					令和8年度末の目標数値 小学校85%以上 中学校85%以上
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
小学校83.4% 中学校75.3%	小学校81.6% 中学校88.4%	小学校83.7% 中学校83.8%	小学校85.0% 中学校85.8%	小学校86.5% 中学校84.7%	小学校 85%以上 中学校 85%以上	小学校101.7% 中学校99.6%
取組概要	「考え、議論する道徳」への質的転換と、保幼小中連携を軸とした組織的な推進を図った。講師を招聘した担当者会、公開授業の実施を通じて生徒指導の4視点や発達の段階に応じた指導案作成を行い、主体的・対話的で深い学びの定着をめざした。また、「家庭で取り組む高知の道徳」の活用促進や、道徳参観日の実施など、家庭・地域との連携の充実を図っている。					
課題（今後の方向性）	成果としては、市が毎年、年2回行っている道徳意識調査において「自分のことについてよく考える」の項目で小中ともに昨年度、第1回調査を上回り、目標達成率100%となった。（小91.9%・中学校92.8%）また、中学校が10項目中7項目で改善が見られた。特に「地域愛（+4.5p）」や「将来の目標（+2.7p）」が向上しており、自己の生き方と社会の関わりへの前向きな意識が育っている。課題としては、小学校において「自分には、よいところがある」が昨年度比-3.8pと減少した。高学年への移行期における他者比較や自信の喪失が要因と考えられる。今後は、「自己成長」を実感させる指導の充実を図るとともに、ポジティブな側面を保護者・地域へ積極的に発信し、協力体制を再構築する。					
整理No	16	担当課	学校教育課	評価	A	
成果指標	人が困っているときは、進んで助けている ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合					令和8年度末の目標数値 小学校 95.0%以上 中学校 90.0%以上
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
-	小学校91.7% 中学校92.7%	小学校83.7% 中学校83.8%	小学校93.9% 中学校87.5%	小学校95.0% 中学校89.4%	小学校 90.0%以上 中学校 85.0%以上	小学校105.5% 中学校105.1%
取組概要	「多様性・包摂性」をキーワードに、道徳科、特別活動や総合的な学習の時間など、教育活動全体を通じた人権尊重の学校づくりを推進した。人権感覚の醸成では、多様な他者との協働や交流を通じ、自己の重要性に気づくとともに、他者の権利を守り互いを認め・支え合う意識の育成をめざした。また、児童生徒への指導の前提として、教職員自らが互いを認め合い支え合う人権感覚が確立した組織であることを大切に、人権に関する校内研修を全小中学校で行った。					
課題（今後の方向性）	成果としては、全国・学力学習状況調査の質問紙調査及び、市が毎年、年2回行っている道徳意識調査において「人が困っているときは、進んで助けている」という項目において高い水準を維持していることである。日常的な人権教育や道徳の授業等を通して他者への貢献意欲が育ってきている。課題は、ネット上のやりとりや多様な背景をもつ他者に対しても偏見なく行動に移せる実践的な人権感覚へと高めていく必要があることである。今後は、自分が大切にされていると実感できる安心・安全な学級経営を基盤に、互いの違いを強みとして認め合える取組を推進する。					

施 策 名		⑤キャリア教育の推進				
整理No	17	担当課	学校教育課	評 価	B	
成果指標	将来の夢や目標を持っている。 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合					令和8年度末 の目標数値 小学校90.0% 中学校85.0%
令和2年度実績 （計画作成時）	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
小学校85.2% 中学校80.2%	小学校84.1% 中学校75.7%	小学校81.8% 中学校74.5%	小学校82.2% 中学校73.7%	小学校 79.0% 中学校 70.3%	小学校90.0% 中学校85.0%	小学校 87.7% 中学校 82.7%
取組概要	キャリア教育の年間指導計画に基づき、各教科や「総合的な学習の時間」における授業実践に加え、学校教育活動全体を通して児童生徒が将来への夢や希望を抱けるよう指導を展開している。また、具体的な進路意識の醸成を図るため、校外学習（社会見学や生産者との交流等）や職場体験学習を実施した。これらの体験活動を通じ、自己の生き方や社会との関わりについて、より主体的に考える機会を創出している。					
課 題 （今後の方向性）	児童生徒が自身の良さや可能性を認識し、興味・関心のある分野を授業や体験を通して育んでいく取り組みをさらに強化する必要がある。今後は、地域の企業とのつながりをより重視し、社会の実情に触れる機会を増やすことで、将来の夢や目標を描けるような指導を推進していく。日常の授業においても、教師が意図的な働きかけを行い、主体的な学びや仲間との関わりを通して、生徒が自分の可能性を実感できる場や機会の設定、肯定的な声かけを継続的かつ系統的に展開していくことが求められる。					

施策名		⑥人権教育の推進				
整理No	18	担当課	学校教育課		評価	A
成果指標	個別の人権課題に関する校内研修及び授業研究を、年間計画に位置付け、実施している学校の割合					令和8年度末の目標数値
						100%
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
取組概要	各学校では、子どもや地域の実情を踏まえ、人権教育目標の設定を行い、計画的・系統的な人権教育全体計画・年間指導計画に基づいた取組を行っている。そして、PDCAサイクルによって検証・改善を進められるよう、人権教育に関する校内研修や校内研修の内容を踏まえた個別の人権課題についての授業研究を通して、各教科等における人権教育を充実させるよう取り組んでいる。令和7年度は、市として個別の人権課題に関する校内研修支援を行ったり、人権教育担当者の悉皆研修を開催したりして、人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成のための実践事例について学ぶ機会の充実に努めた。					
課題(今後の方向性)	市の担当者会では、①教科の中の人権教育②日常生活・学級経営のなかの人権教育について研修を行い、各校における人権に関する知的理解の深化と人権感覚の育成の充実に努めた。また、全ての小中学校で個別的な視点に関わる内容、人権教育に特化した取組等を各校で洗い出し、それをもとに、人権教育の推進組織による点検、修正を行い、これまで以上に意識して人権課題を取り扱う体制づくりを行った。今後は、家庭や地域及び、地域内の他の学校(同校種・異校種)、保育所・幼稚園に伝わるように情報を発信・共有し、縦と横の連携による人権教育を推進する体制を確立する。					
整理No	19	担当課	学校教育課		評価	B
成果指標	いじめ認知件数(1,000人当たりの認知件数)					令和8年度末の目標数値
						全国平均以上
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
254.1件	小学校217.4件 中学校46.9件	小学校295.2件 中学校36.2件	小学校146.7件 中学校44.9件	小学校66.3件 中学校35.4件	全国平均以上	9月に全国数値発表
取組概要	「いじめはどの学校でもどの子どもにも起こり得る」という認識のもと、早期発見と早期対応に努めている。そのために、いじめ・児童虐待・不登校に関する校内研修を確実に実施し、教職員の認知力と対応力の向上に取り組んでいる。また、年3回の生活学習アンケートを実施し、その回答によっては個別面談を実施したり、定期的に二者面談等を行ったりしている。また、令和7年3月に「香南市いじめ防止基本方針」を改定し、各校における「学校いじめ防止基本方針」の見直しを行った。具体的には、いじめをさせない取組、いじめが起きにくい環境づくり、早期発見等に関する具体的な取組等について見直すとともに、「学校いじめ防止基本方針」に児童生徒が参画すること、策定後の子ども、保護者、関係機関への説明・周知などについての留意点を確認し、改定を行った。					
課題(今後の方向性)	令和7年10月に公表された令和6年度の全国の千人当たりのいじめ認知件数は、小学校82.2件、中学校39.7件であり(全校種平均54.5件)、香南市は小学校146.7件、中学校44.9件であったため(小中平均114.8件)、小中学校で全国平均以上となった。令和7年度は、小学校66.3件、中学校35.4件であり(小中平均56.78件)のため、いじめ認知件数が少なくなっている。そのため、令和7年度はいじめ認知件数は令和6年度の全国平均以上であるが、学校におけるいじめの認知力が低下している可能性があるため、評価をBとした。現状を検証し、いじめの認知力向上に向けた取組を推進するとともに、「学校いじめ防止基本方針」に沿った組織的な体制づくりについて定期的に確認する機会を設ける。					

施 策 名		⑦健やかな体の育成				
整理No	20	担当課	学校教育課	評 価	B	
成果指標	肥満傾向率（小学校5年生）					令和8年度末の目標数値
						10.0%以下
令和2年度実績 （計画作成時）	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
16.8%	14.3%	13.4%	14.3%	15.6%	10.0%以下	64.1%
取組概要	<p>例年給食時の栄養教諭による指導や体育科・保健体育科、家庭科等での指導のほか、始業前の時間や長い休み時間、体育集会などの場面を利用した運動機会の保障に向けた取組を企画運営するなど、年間を通じた取組を行っている。また、保護者に対しては、懇談会や通信等を通じて、基本的な生活習慣の定着に向けた取組の紹介や啓発を継続的に行っている。</p>					
課 題 （今後の方向性）	<p>要因として、雨天時の自家用車通学の増加や、休み時間におけるタブレット端末の利用など、日常生活の中で身体を動かす機会が減少していることが考えられる。また、放課後や休日の過ごし方も変化しており、児童が自らの生活・運動習慣を自律的に見直し、改善しようとする意欲や態度を育てていくことが課題となっている。今後は、家庭科や体育・保健体育科等の授業を通じ、栄養バランスや規則正しい食事の時刻、回数などについて理解を深めるとともに、自らの健康を主体的に管理する力を養う指導を充実させていく必要がある。</p>					

整理No	21	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合 (小学校6年生・中学校3年生)					令和8年度末 の目標数値	小学校96.0% 中学校94.0%
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校95.7% 中学校93.2%	小学校95.7% 中学校94.2%	小学校94.9% 中学校90.2%	小学校91.1% 中学校92.3%	小学校 95.8% 中学校 89.0%	小学校96.0% 中学校94.0%	小学校 99.7% 中学校 94.6%	
取組概要	毎年度継続的に、給食指導時間における栄養教諭等による食育指導（食品と栄養素について、朝食摂取による効能・効果）や体育科・保健体育科、家庭科での栄養・保健の内容、基本的な生活習慣の内容の学習に加え、参観日等を活用し、保護者への啓発活動を行った。						
課題 (今後の方向性)	生活習慣の確立には一定の期間を要することから、今後も教科横断的な指導や保健指導、食育指導など、あらゆる機会を捉えて朝食摂取の重要性を説き、実践力の育成を図る。また、本課題の解決には学校全体での組織的な対応に加え、家庭との連携が不可欠である。各種学校通信等を活用し、保護者に対しても朝食の意義や規則正しい生活習慣についての啓発を粘り強く行い、地域・家庭と一体となった取組を継続していく。						
整理No	22	担当課	こども課			評価	B
成果指標	毎日朝食を食べる児童生徒の割合（3歳児）					令和8年度末 の目標数値	98.0%以上
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
96.4%	98.4%	96.9%	95.3%	97.9%	98.0%以上	99.9%	
取組概要	保育所・こども園・幼稚園では、給食だよりや3歳児の保護者を対象にした基本的な生活習慣に関する学習会（年1回）と、すくすくリズムカレンダーの取組（年2回）を実施し、早寝・早起き・朝ごはんの啓発を行った。また、参観日等を利用し、栄養士が保護者に朝食やバランス食についての講話を行うとともに、子ども達には朝食をテーマにした食育劇の実施や保幼小中食育推進運営委員会から「朝ごはん」をテーマに食育だよりを発行するなど、食育事業に取り組み、啓発を行った。また、健康対策課と連携をとりパパママ教室や乳幼児健診、子育て支援センターなどで、朝食摂取の啓発を行った。						
課題 (今後の方向性)	乳幼児期は、保護者の生活習慣の影響を受けやすく、保護者が朝食を摂取することで、こどもの摂取率も上がるため、様々な機会を通じて保護者への継続した取組を行う必要がある。今後も保護者と関わる機会を利用したり、送迎時や連絡帳を通して、家庭や園の様子を共有し、朝食や生活リズムの大切さについて、継続的に啓発を行っていく。 また、健康対策課や保育所・幼稚園等と連携を図り、食育事業、パパママ教室や乳幼児健診での指導、子育て支援センターでの栄養相談を継続して行う中において、朝食について重点を置きながら、生活リズムを含めた更なる啓発を行う。						

施策名		⑧特別支援教育・保育の推進					
整理No	23	担当課	学校教育課			評価	A
成果指標	個別の指導計画を作成した小中学校の割合					令和8年度末の目標数値 小→中100% 中→高100%	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
-	小→中100% 中→高100%	小→中100% 中→高100%	小→中100% 中→高100%	小→中100% 中→高100%	小→中100% 中→高100%	小→中100% 中→高100%	
取組概要	<p>「通級による指導」を受ける児童生徒及び「特別支援学級」に在籍する児童生徒は全員「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」を作成し、保護者と学校間で定期的に共通理解を図りながら、支援体制の充実に努めている。また、合理的配慮の提供について確認を行っている。通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒についても、外部専門家を活用した支援体制充実事業を活用しながら「個別の指導計画」の作成を行い、支援体制の充実に努めている。</p>						
課題 (今後の方向性)	<p>「個別の指導計画」の作成について努力義務となっている通常の学級で（通級による指導を受けている児童生徒を除く）「個別の指導計画」の作成を必要とする児童生徒のうち、「個別の指導計画」を作成し、校内支援会や職員会議などで情報共有を行いながら、組織的に指導や支援を実施している学校の割合は小学校71.4（令和6年度47.63%）、中学校25%（令和6年度53.5%）であり、小中学校ともに課題がみられた。特別支援コーディネーター会やアドバイザー訪問のあり方、外部専門家を活用した支援体制充実事業の活用啓発方法について見直した取組を行う。</p>						
整理No	24	担当課	学校教育課			評価	A
成果指標	「個別の指導計画」が必要な児童生徒のうち、「個別の教育支援計画」等のツールを活用して引継ぎが行われた児童生徒の割合					令和8年度末の目標数値 小→中100% 中→高80%以上	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
-	小→中65.0% 中→高77.3%	小→中81.3% 中→高93.7%	小→中100% 中→高100%	小→中100% 中→高100%	小→中100% 中→高80%以上	小→中100% 中→高100%	
取組概要	<p>「個別の指導計画」が必要な児童生徒数のうち「個別の教育支援計画」等のツールを活用して引継ぎを行う日時について市が把握し、引継ぎの場に行っている。また、新入生についての引継ぎ内容を生かした支援が行われているのか、アドバイザー訪問で確認を行い、指導・助言を行っている。</p>						
課題 (今後の方向性)	<p>「個別の教育支援計画」等のツールを活用して引継ぎを行うことについては、100%実施できている。今後は、引継ぎ内容が切れ目のない支援に生かされているのか1年次には確認しているが、その後、2年次、3年次と進級する中で支援が切れていないか確認を行い、指導・助言を行う体制を構築する。</p>						
整理No	25	担当課	こども課・学校教育課			評価	A
成果指標	スマイルサポート支援ファイル及び支援シートを活用した引き継ぎの実施の割合					令和8年度末の目標数値 100%	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
取組概要	<p>一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を行い、乳幼児期から学校卒業までを通じて、一貫した教育支援体制を構築するために作成・活用している。 幼児期から義務教育段階への移行期においては「引継ぎシート」の作成・活用を推進した。関係者間の情報や認識の共有化、就学先の学校での教育支援への円滑な移行に取り組み、中学校入学前においても「引継ぎシート」の作成・活用を推進し、適切な支援方法について共有し、活用している。</p>						
課題 (今後の方向性)	<p>対象となるすべての子どもに対して支援ファイル及びシートを作成し、引継ぎが行われている。現状に合わせてスマイルサポート支援ファイルの活用マニュアルを改訂したことから、これまで以上にPDCAサイクルを回しながら切れ目のない支援を行う。特に、小学校では、スマイルサポート支援ファイルで引き継がれた児童の支援を個別の教育支援計画の作成につなげるなど、より切れ目のない教育支援につなげるとともに、合理的配慮等の支援内容をより具体的に記載することを啓発し、見直しをもった支援の充実につなげる。</p>						

基本目標	1. 就学前・学校教育の推進
	(4) 教育活動を支える体制の充実

施策名		①教職員の資質向上とマネジメント力の強化				
整理No	26	担当課	学校教育課		評価	A
成果指標	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組んでいる学校の割合（「よく行っている」と回答した学校の割合）※全国学力・学習状況調査（学校質問紙）結果より ※令和7年度は「学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか」に表現が変更されている。					令和8年度末の目標数値 小学校100% 中学校100%
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
-	小学校57.1% 中学校50.0%	小学校57.1% 中学校50.0%	小学校100% 中学校50%	小学校100% 中学校100%	小学校85% 中学校75%	小学校117.6% 中学校133.3%
取組概要	中学校では、各教科の「タテ」持ちや教科間連携の取組等による「教科会」や「学年会」の位置付けにより、組織的な取組を推進している。小学校では若年教員の増加による学級間の指導力にばらつきがあるため、ベテラン教諭と組んだりメンター長を中心としたメンター会を計画的になどの工夫をする等して学年の動きの統一化や学級経営の安定化を図っている。					
課題（今後の方向性）	小・中学校ともに目標値に達成した。大量退職、大量採用による組織内の若年教員の割合の増加、支援の必要な児童生徒の増加の傾向はこの先も予想されることから、早期に情報を共有し組織的に対応するような体制づくりが引き続き必要である。学年会やチーム会、メンター制など縦（学年）と横（学級）の関係をさらに密にしていく。今後も学校長の主導のもと、全ての教職員が「自分事」として学級・学校運営に参画できるよう、各チーム会や学年会、教科会等で取組の研等を行い、学校組織の体制強化を推進していく。					

整理No	27	担当課	学校教育課		評価	A
成果指標	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している					令和8年度末の目標数値 小学校 100%以上 中学校 100%以上
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
小学校 - 中学校 -	小学校85.7% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校 85%以上 中学校 75%以上	小学校117.6% 中学校133.3%
取組概要	小・中学校では、学校教育目標実現に向けて学校経営計画を作成し、検証改善サイクルが確立し機能するよう、各種学力調査結果等を踏まえながら、年間に中間評価と年度末評価の2回評価をしている。管理職だけでなく、各担当が分析・考察し、それらを全体で共有しながら、課題改善に向けた取組を検討したり継続したりしている。					
課題（今後の方向性）	データに基づく各種計画を立案し、検証改善サイクルを駆動させる取組は令和7年度結果からも浸透してきたと捉えることができる。 学校組織全体が活性化し、持続的に成長できるような取組をいつ、誰が、何を、どのように検証するのかを見える化するとともに、全教職員が共有しPDCAサイクルを回すことができるよう今後も継続的に実践していく。					

整理No	28	担当課	学校教育課			評価	A
成果指標	授業の内容がよくわかる【国語】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合					令和8年度末の目標数値	
						小学校90%以上 中学校80%以上	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校 — 中学校 —	小学校86.3% 中学校89.3%	小学校87.2% 中学校91.2%	小学校89.5% 中学校84.0%	小学校 90.4% 中学校 75.0%	小学校 88%以上 中学校 75%以上	小学校 102.7% 中学校 100.0%	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かしている。小学校では、学校全体として、中学校では授業改善プランを中心に授業改善に取り組んでいる。学習指導要領の趣旨を目指して、国語科の特質を踏まえ、授業研究を中心に、教科会・チーム会等で協働して組織的な取組を進めてきている。						
課題 (今後の方向性)	児童生徒の意識調査においては良好な結果が得られ、当初の目標を達成した。しかし、学力調査等の正答率を確認すると、小学校では全国を1.2ポイント上回っているものの、中学校では1.3ポイント下回る結果となった。この結果を踏まえ、今後は知識の習得に留まらず、「何ができるようになったか」「何が身に付いているのか」という資質・能力の育成をより重視した授業づくりが求められる。特に、1人1台端末を効果的に活用した授業改善の取組を継続的に推進し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る必要がある。						

整理No	29	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	授業の内容がよくわかる【算数・数学】 ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合					令和8年度末の目標数値	
						小学校90%以上 中学校80%以上	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校 — 中学校 —	小学校81.9% 中学校83.9%	小学校82.5% 中学校82.8%	小学校85.0% 中学校72.0%	小学校 86.6% 中学校 62.3%	小学校88%以上 中学校75%以上	小学校 98.4% 中学校 83.0%	
取組概要	県指定事業・研修のほか、東部教育事務所指導主事による要請訪問等を最大限に活かして、小学校では、学校全体として、中学校では授業改善プランを中心に継続的に授業改善に取り組んでいる。学習指導要領の趣旨を目指して、学習内容の系統性が強い算数・数学科の特質を踏まえ、授業研究を中心に、教科会・チーム会等で協働して組織的な取組を進めてきている。						
課題 (今後の方向性)	学力調査等の結果を見ると、正答率は小学校で全国と同等である一方、中学校では全国を2.3ポイント下回っている。特に学習内容の系統性が強い算数・数学においては、小学校から中学校への円滑な積み上げが不可欠である。中学校で内容が抽象化・高度化する中で、小学校段階からの学習内容の定着はもちろん、算数・数学に対する肯定的な態度は、学習を支える極めて重要な要因となる。そのため、小学校段階から児童が「わかる・できる」という成功体験を積み重ねられる授業づくりを推進し、自己効力感を高めることが求められる。今後も、各校における授業改善に向けた研究や研修を継続的に支援し、組織的な指導力の向上を図る必要がある。						

整理No	30	担当課	こども課	評価	A	
成果指標	市職員研修及び園内研修の実施回数					令和8年度末の目標数値
						52回以上
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
51回	52回	62回	60回	71回	52回以上	136.5%
取組概要	<p>様々な経験年数の職員が主体的に学び合える機会として園及び市主催で様々な研修会を行った。所属長・看護師研修、副所属長・主任研修、中堅保育者等研修、公開保育、園内研修では教育・保育の資質向上を目指し、特別支援研修等では専門的知識や子どもの行動理解・支援の在り方を学び、それぞれの研修でスキルアップを図った。</p>					
課題(今後の方向性)	<p>オンライン形式による研修会も活用し、引き続き主体的な研修の実施を行い、保育・教育の質の向上につなげていく。研修中の人員確保や研修時間の確保など研修体制に制限があるため、参加しやすい工夫や体制を整える必要がある。</p>					

施策名		②相談支援体制の充実				
整理No	31	担当課	こども課	評価	B	
成果指標	市の子育て情報サイトへのアクセス回数					令和8年度末の目標数値
						11,000回
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
8,798回	13,151回	11,546回	12,053回	10,790回	11,000回	98.1%
取組概要	<p>妊娠期から就学期までの助成制度や子育て支援制度、子育ての悩み事や困った時の相談先などの子育て関連情報をまとめてインターネット上のサイトに掲載している。また、スマートフォン用サイトへつなぐ二次元コードの設定や「LINE」を活用した市のHPと連動した情報発信ツールの普及を行った。</p> <p>また、「LINE」登録者へは毎月お便りを発信し、育児学級等の子育て情報をタイムリーに発信した。</p>					
課題(今後の方向性)	<p>子育て情報サイト「香南キッズ」の周知をこれまで以上に多くの場面で行うとともに、関連する部署と連携し情報内容の充実を図る。</p> <p>関連する部署と連携しながらニーズに応じた見やすい情報発信に努める。</p>					

施策名		③生徒指導の充実					
整理No	32	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	学校に行くのは楽しい ※全国学力・学習状況調査（児童・生徒質問紙）結果より 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合					令和8年度末の目標数値 小学校95%以上 中学校90%以上	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
小学校91.5% 中学校87.0%	小学校90.9% 中学校83.0%	小学校85.7% 中学校82.3%	小学校82.6% 中学校83.2%	小学校88.6% 中学校83.5%	小学校 93.0%以上 中学校 88.0%以上	小学校95.2% 中学校94.8%	
取組概要	<p>保幼小中連携した「魅力ある園・学校づくり」の取組を全ての中学校区で進めてきた。各校の担当者を中心に「居場所づくり」「絆づくり」の取組をつなげ、生かす取組、そろえる取組に整理し、めざす子どもの姿に向かうための発達の段階に合わせた取組を共有し、PDCAを回した。</p>						
課題 (今後の方向性)	<p>保幼小中連携し「魅力ある園・学校づくり」を推進している。その結果として、香南市で行っている魅力意識調査（魅力ある学校生活アンケート）において、校種が変わった小学校1年生、中学校1年生の「学校は楽しい」の肯定的評価が昨年度に引き続き、例年に比べ高くなっており、新規不登校児童生徒の抑制につながっている。</p> <p>今後も、これまでの効果的な取組やつながりの可視化を行い、各中学校区が15年間を見通した「めざす子ども像」を共有し、発達支持的生徒指導の考え方を活かした「子ども主体の取組」の充実を図ることのできるよう連携担当者会等、研修の充実を図る。そして、より「魅力ある園・学校づくり」となるように取組を推進する。</p>						

施策名		④教職員の働き方改革の推進					
整理No	33	担当課	学校教育課			評価	B
成果指標	年間の時間外業務の時間数が360時間以内の教職員の割合					令和8年度末の目標数値 100%	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合	
30.0%	34.7%	52.0%	48.0%	46.8%	70.0%以上	66.9%	
取組概要	<p>長期休業中の早出遅出出勤や各学校における定時退校日や長期休業中の閉庁期間を設ける取組はこれまで通り行っている。各校の校務DXが進み、例えばポータルサイトで校内・教育情報を一元化することによりペーパーレスや情報にアクセスしやすくなることで教職員の業務の効率化や負担軽減につなげようとしている。またほっとスタート事業（標準を大きく上回る授業時数を見直したり、各校が余剰授業時間数に応じて休み明け等の授業時間を減らしたりしている）に取り組み、放課後に行える業務時間を確保することに取り組んでいる。</p>						
課題 (今後の方向性)	<p>教育DXが進み、教職員の業務の効率化が進んできてはいるが、個別の教育的課題に対応するため、研究や研鑽等が常に必要であり、教師自身の高い責任感等から時間外在校等時間が減少しにくい実態がある。また、中学校は特に部活動業務の負担がある。今後は「香南市立学校の業務量管理・健康確保措置実施計画（R8.4.1～）」のもと、教員の肉体的、精神的な負担を軽減してワーク・ライフ・バランスを促進し、本来業務である授業改善や生徒指導等に充てられる時間の確保や時間外在校等時間の削減に向けて教育委員会としても状況の把握や体制整備等を行っている。</p>						

基本目標	1. 就学前・学校教育の推進					
	(5) 保幼小中の教育環境の充実					

施策名		①学校・保育施設の環境整備				
整理No	34	担当課	こども課・学校教育課		評価	A
成果指標	通園・通学路の点検を定期的実施できたか					令和8年度末の目標数値 保幼100% 小中100%
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%
取組概要	<p>小・中学校では、通学路の安全点検を実施した。令和7年度は、小中学校から点検箇所として40か所報告があったので、香南市通学路安全対策連絡協議会で合同点検を行い対策を検討した。主な対策として、横断歩道や停止線の塗り直しを関係機関に依頼し、実施した。また、道路の拡幅など時間を要する対策については、複数年度にわたって対策を実施していく。</p> <p>保育所・幼稚園では現在、保護者の送迎による通園となっており、児童の通園路という概念がなくなったことから、活動中（お散歩など）で通る道路や、避難経路及び駐車場から施設までの通路等の点検を定期的実施しており、令和7年度はお散歩経路にある水路の転落防止対策を関係機関に依頼し実施した。</p>					
課題 (今後の方向性)	危険箇所の点検については、香南市通学路安全対策連絡協議会及び関係機関と連携し、危険の周知及び危険箇所対策を迅速に実施する。					

施策名		②防災教育等の推進				
整理No	35	担当課	学校教育課		評価	A
成果指標	学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の防災教育を実施した					令和8年度末の目標数値 小学校100% 中学校100%
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校100% 中学校100%	小学校 100% 中学校 100%
取組概要	年度当初の教育計画に防災教育の年間計画を位置付け、発達段階に応じて学校安全プログラムを活用した年間5時間以上の授業を実践している。					
課題 (今後の方向性)	年間指導計画に基づき、着実な学習を展開していくことが求められる。防災教育においては、各校の立地条件によって避難行動が異なる。そのため、立地条件を踏まえつつ、具体的な場面設定が重要となる。今後は、状況設定を意図的に変化させるなど、多様なシミュレーションを取り入れるように取組を推進する。これにより、児童生徒が防災を「自分事」として思考できる、より質の高い防災学習の実現を目指していく。					

整理No	36	担当課	学校教育課			評価	A
成果指標	危機管理マニュアル（学校防災マニュアルを含む）の見直しの機会を設けた					令和8年度末の目標数値	小学校100% 中学校100%
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合	
-	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校 100% 中学校 100%	小学校100% 中学校100%	小学校 100% 中学校 100%	
取組概要	当該年度の取組の検証に基づき、次年度の諸計画の見直しを行うとともに、新年度当初には新体制のもとで改めて情報の共有・徹底を図っている。本年度は、特に「熱中症」への対応について、実態に即したマニュアルの再構築を重点的に実施した。						
課題（今後の方向性）	小・中学校の全校において、対応マニュアルの見直しが完了した。今後は、本マニュアルを実効性のあるものとするため、教職員一人ひとりが自身の役割を再確認するとともに、実践的な訓練等を通して組織的な対応力を高めていくことが求められる。また、義務教育段階に留まらず、保幼小中の一貫した対応が不可欠である。今後は市の研修会等において、校種間の連携を深める機会を設けるなど、地域全体で子どもを守る体制の構築を目指していく。						

整理No	37	担当課	こども課・学校教育課			評価	A
成果指標	多様な状況での避難訓練を計画的に実施できたか					令和8年度末の目標数値	保幼100% 小中100%
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合	
保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼100% 小中100%	保幼 100% 小中100%	
取組概要	<p>火災および地震を想定した基本的な避難訓練を、全市的な必須項目として全校で確実に実施した。これに加えて、各校の立地条件に応じた津波や土砂災害への対応を組み合わせ、年間3回以上の訓練回数を行っている。実施にあたっては、学校の判断により、授業中以外の時間帯（休み時間や掃除中等）を想定した場面設定や、弾道ミサイル発射時を想定した対応を取り入れるなど、各校の実情に応じた工夫が図られた。</p> <p>【保幼こ】 火災や不審者対応の避難訓練のほか、地震・津波・洪水災害に対応する避難訓練を実施した。（保育所・こども園は毎月1回以上、幼稚園は年間10回以上実施） また、令和7年度は所園長が日本災害救助支援機構が開催するBCP訓練に参加し「即断即決」「初動対応の難しさ」を体験し、自園での避難訓練の見直しを行った。</p>						
課題（今後の方向性）	<p>今後も、各園・学校の実態に適した、より実践的で当事者意識を高める避難訓練を継続していく必要がある。その際、防災教育先進地のノウハウを積極的に取り入れつつ、多様な状況設定や新たな危機事象への対応など、訓練内容に変化を持たせることが重要である。</p> <p>【保幼こ】 研修やBCP訓練を受講することで、園の避難訓練の内容や周辺の避難経路などを見直すきっかけとなり、抜き打ち訓練や天気の良い日に行うなど、多様な状況下での避難訓練を実施した。今後も学んだことを活かした避難訓練を実施していく。 また、令和8年度は副所長教頭・主任クラスに日本災害救助支援機構が開催するBCP訓練に参加してもらいリーダーとなる人材を増やし、災害に対する意識を高め、より本番に近い訓練を実施していく。</p>						

基本目標	2. 生涯学習の推進				
	(1) 生涯にわたる「まなび」の展開				

施策名		①ライフステージに応じた「まなび」の充実				
整理No	38	担当課	生涯学習課	評価	B	
成果指標	各種教室の延べ開催回数					令和8年度末の目標数値
						170回
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
57回	118回	106回	104回	127回	170回	74.7%
取組概要	<p>市内外の講師を招いて各種テーマで教室を開催し、人材育成や学びにつながる教室を開催した。  【中央公民館：72回/夜須公民館：26回/香我美市民館：24回】  【いきいきセミナー：5回】  また、予定している教室内容や講師の情報を定例化している公民館長会等で情報共有を図った。</p>					
課題 (今後の方向性)	引き続き、人材育成や学びの場の提供を行いながら、住民ニーズについて公民館運営委員会等との情報共有に努めていく。					

整理No	39	担当課	生涯学習課	評価	C	
成果指標	各種教室の延べ参加者数					令和8年度末の目標数値
						4,700人
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
1,552人	2,643人	2,506人	2,823人	2,715人	4,700人	57.8%
取組概要	<p>各種教室の参加人数は目標に届かなかったが、予定している教室内容や講師の情報を公民館相互で情報共有を図ることはできた。  【中央公民館：1,018人/夜須公民館：379人/香我美市民館：345人】  【いきいきセミナー：973人】</p>					
課題 (今後の方向性)	より多くの方に参加してもらえるように、ニーズを把握した上での内容や講師の選定に公民館サークルや地域住民の登用も行いながら次代に知識を伝承するとともに、公民館ごとの連携、広報手段の見直しを行っていく。各公民館間で予定している内容や講師の情報共有を行い、協力して市としての講座の在り方の検討を重ねていく。					

施策名		②「まなび」の広報・周知				
整理No	40	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	ホームページ及びSNSの更新回数					令和8年度末の目標数値
						70回
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
56回	245回	204回	318回	370回	70回	528.6%
取組概要	<p>ホームページ及び各施設専用タブレットよりインスタグラムを活用し、市民の皆様をはじめ施設利用者へ速やかかつ伝わりやすい内容として情報発信を継続的に実施することができた。 【中央公民館：84回/夜須公民館：50回/香我美市民館：11回/図書館：225回】</p>					
課題(今後の方向性)	<p>公民館教室等の参加者において、特に若者の情報収集元はSNS等が主流となっていることから、自主事業や各種教室、イベント等の告知だけでなく、インスタグラムで事後の報告もしっかり行い、引き続き情報発信に努める。また、ホームページにおいても古い情報がいつまでも掲載されていることがないようにしていく。</p>					

施策名		③さまざまな分野に関する「まなび」の提供				
整理No	41	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	公民館等の出前講座開催回数					令和8年度末の目標数値
						5回
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
-	0回	0回	1回	9回	3回	300.0%
取組概要	<p>公共ホール音楽活性化(おんかつ)事業で音楽家を学校等4か所に派遣した。また、影絵芝居「鯨生」の市内5ヶ所巡回公演を開催した。これらの取り組みにより、市民により近いところで事業を展開でき、これまで鑑賞事業に参加していない方にも届けることができた。 おんかつ事業：赤岡中学校51人、香南市小中学校PTA17人、香我美中学校21人、野市中学校45人 影絵芝居：山南防災コミュニティセンター28人、赤岡市民館34人、旧夜須幼稚園29人、野市東防災コミュニティセンター40人、吉川市民館30人</p>					
課題(今後の方向性)	<p>今後も住民のニーズや、地域等特性を把握し、幅広い講座の内容や幅広い年齢層に対応できる教室を開催していく。また、ホールでの自主事業の際に出演者や講師によるアウトリーチ事業を取り入れる。</p>					

基本目標	2. 生涯学習の推進					
	(2) 「まなび」の拠点の充実					

施策名		①「まなび」の拠点整備				
整理No	42	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	地区公民館等の利用者数					令和8年度末の目標数値
						45,000人
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
21,192人	55,707人	65,344人	68,923人	65,649人	43,000人	152.7%
取組概要	<p>各種利用社会教育団体やまちづくり協議会により公民館活動が再開され、例年通りの取り組みができ、目標は達成できた。</p> <p>【佐古・富家公民館：12,252人/みどり野東公民館：2,873人/野市東防災コミュニティ：2,041人/夜須地区公民館：500人/香我美市民館：12,449人/香我美地区公民館：17,245人/赤岡市民館：11,139人/吉川市民館：7,150人】</p>					
課題(今後の方向性)	<p>地区公民館活動やまちづくり協議会等の行事も開催が感染症対策以前に見込める予定だが、感染症が無くなった訳ではないので、まだまだ利用者にとっては開催に不安な気持ちを持っている。感染症対策中に中止、縮小した各行事等の再開について支援が必要なものについては住民ニーズを見極めながら実施できるかたちでの協議等を行っていく。</p>					

施策名		②「まなび」の拠点の活用促進				
整理No	43	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	ホームページ及びSNSの更新回数【再掲】					令和8年度末の目標数値
						70回
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
56回	245回	204回	318回	370回	70回	528.6%
整理No	44	担当課	生涯学習課	評価	B	
成果指標	図書館の入館者数					令和8年度末の目標数値
						73,000人
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合
44,425人	52,660人	53,663人	50,522人	51,822人	73,000人	71.0%
取組概要	<p>コロナ禍で低迷していた入館者数は、徐々に回復傾向にはあり、令和7年度は、合計51,822人と昨年度より1,300人増加したが、目標値には依然として程遠い数値であった。</p> <p>12歳までの入館者数を増やすため、引き続き市内放課後児童クラブへの定期配送実施など、積極的な取組を今後も続けていきたい。また、目標数値に近づくようイベント強化等も行い回復を図りたい。</p>					
課題(今後の方向性)	<p>中学生未満の入館者数を増やすため、将来的に学校への利用者カードの申込書の配布やイベント開催等の周知徹底を行う。また、障害者や高齢者等、図書館に来館できない人に向けた図書宅配など、新サービスの構築などを継続して検討していく。</p>					

整理No	45	担当課	生涯学習課	評価	B	
成果指標	図書館の貸出冊数					令和8年度末の目標数値
						130,000冊
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
107,577冊	123,605冊	118,491冊	118,930冊	121,487冊	130,000冊	93.5%
取組概要	<p>新刊本の積極的な告知やおすすめ文庫コーナーの設置に加え、放課後児童クラブや市内小中学校への図書配送、保育所・幼稚園等における積極的な図書の紹介などを実施し、結果121,487冊の貸出冊数となり、昨年度より2,557冊増加した。</p>					
課題 (今後の方向性)	<p>本年度に実施した利用者アンケートの回答結果を多変量解析により詳細に分析し、利用者満足度や貸出冊数に影響する要因（マーケティング）を把握し、数値目標達成に努めていく。また、蔵書方針に基づき、今後も利用価値のある書籍の充実化を図るとともに、絵本・図鑑などを含む児童書、本館で蔵書冊数が少ない専門書、及びヤングアダルト向けの資料の充実等、選書の更なる工夫に努めていく。</p>					

基本目標	2. 生涯学習の推進				
	(3) 文化・芸術活動の推進				

施策名		①文化・芸術活動への支援					
整理No	46	担当課	生涯学習課			評価	A
成果指標	文化協会支援事業数（文化祭・芸能大会等）					令和8年度末の目標数値	
						14事業	
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合	
3事業	14事業	14事業	14事業	14事業	14事業	100.0%	
取組概要	各町単位の文化祭展示部門・舞台部門の実施について支援を行った。また、香美・香南地区文化協会の主催の短詩型文学振興大会や芸能大会への支援や、岡本彌太文学賞、市美術展覧会を実施し、あわせて14事業について文化振興の推進に努めた。						
課題（今後の方向性）	引き続き大会実行委員会及び市文化協会と連携して、文化活動への支援を充実していく。令和8年度の国民文化祭の実施については、市文化協会や各種文化芸能団体と連携を取りながら取り組みを行う。						
整理No	47	担当課	生涯学習課			評価	B
成果指標	市美術展覧会の出展者数					令和8年度末の目標数値	
						250人	
令和2年度実績（計画作成時）	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合	
208人	220人	219人	232人	227人	240人	94.6%	
取組概要	本年度も美術作品の発表の場と鑑賞の機会を提供するとともに、文化の向上と交流・発展を図ることを目的として、香南市美術展覧会を開催した。写真の部を令和8年1月に開催し、書道、絵画、工芸、グラフィックデザインの部を令和8年2月に開催し、合計227人の出展者があった。令和6年度より新設したグラフィックデザインの部においては、今年度も高校生達若い世代からの出展も多くみられた。また、香南市展に興味を抱いてもらうために、ポスターデザインを県内の高校・大学・専門学校等へ依頼し、28人からの応募があった。						
課題（今後の方向性）	出展者の固定化や、高齢化が例年課題となっている。R7年度も近隣の高校や専門学校にポスターデザイン募集依頼や出展に向けた周知のお願いをした結果、多くのポスターデザインの応募があり、グラフィックデザイン部門においても若い世代の応募が多く見られた。また、今後も継続して応募したい等の要望もいただいた。						

施策名		②郷土の歴史・文化の保存と継承				
整理No	48	担当課	生涯学習課	評価	B	
成果指標	文化財ボランティアガイド登録者数					令和8年度末の目標数値
						15人
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
10人	9人	9人	11人	12人	13人	92.0%
取組概要	<p>香南市文化財を広く伝えていくため、文化財ボランティアガイドの養成に取り組んでいる。令和7年度は、目標指数には届かなかったが、令和6年度より1名増え12名となった。</p> <p>登録者の活用については、国重要文化財安岡家住宅の一般公開を継続的に行い、公開前に1～2回打ち合わせを行ってガイド活動の充実を図った。また、登録者の増員等については、広報でボランティア募集を行った。</p>					
課題 (今後の方向性)	<p>打ち合わせの時点からほとんどのボランティアが参加し、意見を出し合いよりよいガイドになるよう努めている。</p> <p>今後もこの体制を保ちつつ、新しいボランティアの養成と新規のガイド獲得に向けて募集活動をしていく。</p>					
整理No	49	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	文化財啓発事業（小・中学校への出前講座含む）の実施回数					令和8年度末の目標数値
						9回
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
3回	8回	8回	7回	7回	7回	100.0%
取組概要	<p>文化財の重要性を理解し後世に残す意識になってもらうことを目的に、文化財啓発事業を実施していく。</p> <p>令和7年度は、文化財教室（3回）、文化財めぐり（1回）、文化財出前教室（1回）、戦争に関する学習（2回）、安岡家住宅一般公開（定期公開7回）のイベント実施、また、文化財センターでの企画展や「戦後80年巡回パネル展」等により、市民が文化財に触れる機会を提供できた。</p>					
課題 (今後の方向性)	<p>イベント及び定期公開は、天候に恵まれたこともあり令和6年度より多く文化財に触れる機会が作れた。</p> <p>引き続き香南市文化財に関して、市民に向けての各種教室や講座を展開していく必要がある。</p> <p>また、参加人数が定員に達しないことがあるため、より多くの方に興味を持ってもらえるように、周知方法を工夫する必要がある。</p>					

基本目標	2. 生涯学習の推進					
	(4) スポーツの振興					

施策名		①あらゆるスポーツ活動への支援					
整理No	50	担当課	生涯学習課			評価	A
成果指標	スポーツ教室延べ開催数					令和8年度末の目標数値	500回
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合	
180回	554回	658回	816回	855回	500回	171.0%	
取組概要	各種スポーツ教室の開催はこうなんスポーツクラブへ委託して開催しており、令和7年度は、18教室、延べ855回実施できた。どの教室も盛況で競技力の向上だけでなく、良い交流の場になっている。						
課題(今後の方向性)	今後も、市が力を入れるスポーツの提案や生涯活動に効果的なスポーツの研究に努め、こうなんスポーツクラブと連携してニーズを把握し、事業を企画・実施していく。また、スポーツ人口の拡大を図るため、軽スポーツの普及にも取り組んでいく。						
整理No	51	担当課	生涯学習課			評価	B
成果指標	スポーツ少年団及びスポーツ協会登録者数					令和8年度末の目標数値	1,100人
令和2年度実績(計画作成時)	令和4年度実績値	令和5年度実績値	令和6年度実績値	令和7年度実績値	令和7年度の目標数値	目標値に占める現状値の割合	
1,084人	1,126人	1,047人	979人	919人	1,100人	83.5%	
取組概要	令和7年度の登録者数は919人(スポーツ少年団410人、スポーツ協会509人)であり、目標値1,100人に対しやや未達成となっている。スポーツ少年団、スポーツ協会に登録することで、各種大会補助金や施設利用料の減免などの支援が受けられ、利用者にとってはより利用しやすい環境となり、スポーツ振興につながることから登録者数の増加に努める。						
課題(今後の方向性)	引き続き、スポーツ少年団及びスポーツ協会の登録者数の維持・増加に努めていきながら、スポーツ少年団に対しては、指導者講習やハラスメント講習などの受講を促し、子どもに無理のない練習量の確保、スポーツの楽しさを知ってもらう方向に導いていく。スポーツ協会に対しては、近年、運動会も中止になっていることから、スポーツを通じて地域が活性化するような取り組みの実施を働きかけていく必要がある。						

施策名		②スポーツに親しむ環境・体制の充実				
整理No	52	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	全国大会等派遣支援件数					令和8年度末の目標数値
						15件
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
-	12件	8件	18件	21件	15件	140.0%
取組概要	全国大会や四国大会へ出場する選手や団体に対して補助金（スポーツ大会派遣費補助金）を交付していく。令和7年度は9団体、12選手に大会費等を支援・補助することで参加しやすく、競技力の向上や相互の交流が一層図られ、香南市のスポーツ振興に繋がっている。					
課題 (今後の方向性)	個人・団体の負担軽減を図りスポーツに少しでも専念できるよう、今後も事業については継続していく。					
整理No	53	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	スポーツ表彰受賞者数					令和8年度末の目標数値
						個人 30人 団体 5団体
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
個人 20人 団体 4団体	個人 51人 団体 6団体	個人 69人 団体 11団体	個人 31人 団体 6団体	個人 31人 団体 7団体	個人 26人 団体 5団体	個人 119.2% 団体 140.0%
取組概要	スポーツで優秀な成績を収めた個人や団体の表彰を行った。令和7年度はスポーツ賞の審査基準を改正したため、昨年より受賞者数が減少したものの、個人31人・団体7団体と目標を上回ることができた。香南市のスポーツ活動の推進はもちろんのこと、競技者のモチベーションの向上や仲間の励みにもなっている。					
課題 (今後の方向性)	引き続き、スポーツ推進のため、スポーツ賞の事業については継続していく。					

施策名		③スポーツを通じた活力あるまちづくり				
整理No	54	担当課	生涯学習課	評価	A	
成果指標	地域コミュニティの活性化に資するスポーツ関連イベントの開催数					令和8年度末の目標数値
						20回
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
5回	10回	32回	18回	17回	11回	154.5%
取組概要	地域別の運動会（4回）、駅伝大会（3回）、市長杯（10回）など計17ものスポーツ関連イベントを実施することができ、地域コミュニティの活性化に繋がっている。					
課題 (今後の方向性)	市民のスポーツ交流の場として、多くの大会やイベントが開催できた。地域コミュニティを維持・活性化していくためにも、軽スポーツなどを普及するなど継続して取り組む。					
整理No	55	担当課	生涯学習課	評価	B	
成果指標	交流人口の拡大に資するスポーツ関連イベントの開催数					令和8年度末の目標数値
						10回
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
2回	4回	5回	5回	5回	7回	71.4%
取組概要	商工観光課、生涯学習課で各種イベント（塩の道ウォーク、ユニバーサルビーチ、龍馬カップ、ツーデーウォーク、KONAN TRAIL～お塩と羽尾とやすらぎトレイル～）を実施し、交流人口の拡大に取り組んだ。					
課題 (今後の方向性)	今後も商工観光課と連携し、各種スポーツイベントを開催し、交流人口の拡大に取り組んでいく。					

基本目標	2. 生涯学習の推進				
	(5) 地域への「まなび」の還元				

施策名	①「まなび」を還元する取組の推進				
-----	------------------	--	--	--	--

整理No	56	担当課	生涯学習課	評価	B	
成果指標	スポーツ等指導者資格等取得支援者数及び資質向上に資する研修受講者数				令和8年度末の目標数値 新規30人	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
-	15人	23人	24人	28人	新規30人	93.3%

取組概要  
市のスポーツ振興の担い手となる市民の育成を図るために、各種資格取得に要する費用を補助金（香南市スポーツ振興人材育成事業）があるが、本年度申請がなかった。また、香南市スポーツ推進委員の研修会としてパークゴルフ場でゴルフ講座を実施し、28名の受講がありスポーツ指導者の資質向上に努めた。

課題  
(今後の方向性)  
今後も市のスポーツ振興を担ってくれる市民に対して、継続して資格取得に係る費用の支援を行っていく。また、スポーツ指導者等の資質向上を図るため、研修等の参加を促していく。

整理No	57	担当課	生涯学習課	評価	B	
成果指標	生涯学習に関するボランティア等登録者数				令和8年度末の目標数値 80人	
令和2年度実績 (計画作成時)	令和4年度 実績値	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	令和7年度 実績値	令和7年度 の目標数値	目標値に占める 現状値の割合
52人	52人	49人	53人	54人	70人	77.1%

取組概要  
生涯学習に関する知識や技能を活用したボランティアについては、令和7年度も読書ボランティアによる、市内の保幼小中学校、高齢者や障害者施設での絵本の読み聞かせと、文化財ボランティアによる重要文化財安岡家住宅でのガイド等を実施した。合計53人の登録者がおり、それぞれ地域や社会、イベント等でその知識や技能を還元していただいている。  
【読書ボランティア：42人】 【文化財ボランティア：12人】

課題  
(今後の方向性)  
本市の文化財を後世に残していくためには、後継者の育成だけでなく人材の確保も必要になるため、育成事業を進めながら、人材を確保する方法を検討していく。  
また、図書館の読書ボランティアについては、図書館の活動に関心があり、職員と一緒に図書館を盛り上げていただける方々を登録する「サポーター制度」の創設に向け、整備・検討していく。

## 6. 学識経験者の意見

### 1. 成果指標の設定と評価のあり方について

データを政策に活かすという観点からは、「アセスメント（現状の客観的把握）」と「エバリュエーション（価値判断・評価）」を区別することが望ましいように思われる。数値目標は設定の仕方によって施策をミスリードするものとなる可能性を孕んでいる。現状把握のためのデータと評価・価値判断のためのデータを適切に分離・整理した評価体系を構築しつつ、それを基にした施策の計画・推進が求められる。

### 2. 行政評価体系に対する全体的な評価について

市の評価体系全体に対する総括的な所感として、市が構築している評価結果は、何を目標に掲げ、どのような取り組みを行い、最終目標（ゴール）がどこにあり、現在地（現在の進捗状況）がどのレベルにあるのかという「施策の一連の流れ」が明快であり、プロセスの視認性が高いことが評価できる。